

施策目標に関する市民意識調査 報告書

(平成25年度市民アンケート取りまとめ)

平成25年8月

仙台市

目 次

I. 調査の概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査仕様	3
4. 調査期間	3
5. 回収率	3
6. 報告書の見方	4
7. 回答者の属性	5
(1) 性別	5
(2) 年齢	5
(3) 住居形態	5
(4) 職業	5
(5) 世帯構成	6
(6) 居住区	6
(7) 仙台市の居住年数	6
(8) 「り災証明」の状況	6
(9) 母集団（仙台市の18歳以上の人口）との比較	7
II. 調査結果	9
1. 復旧・復興施策	11
(1) 項目別結果一覧	12
(2) 力をいれるべき施策結果一覧	14
(3) 設問別・属性別結果	16
2. 復旧・復興以外の施策	21
(1) 項目別結果一覧	22
(2) 力をいれるべき施策結果一覧	26
(3) 設問別・属性別結果	28
3. 自由意見	51
III. 資料	55
調査票	57

I . 調査の概要

I. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、本市の東日本大震災からの復旧・復興や、施策の推進状況に関する市民の評価やニーズの変化を継続的に把握し、年齢層別の視点も含め総合的な分析を行い、その結果を施策の進捗管理に活かすことにより、本市の重点施策の推進を図ることを目的とする。

2. 調査項目

(1) 東日本大震災からの復旧・復興施策

復旧・復興施策の進捗状況の認識、力を入れるべき施策

(2) 復旧・復興以外の施策

施策の評価、力を入れるべき施策

3. 調査仕様

- (1) 調査地域 仙台市全域
- (2) 調査対象 仙台市に居住する満 18 歳以上の男女 5,000 人
- (3) 抽出方法 平成 25 年 5 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 無記名式の質問紙調査。郵送による配付・回収

4. 調査期間

調査票発送	回収締切	集計対象
平成 25 年 5 月 17 日	平成 25 年 6 月 3 日	平成 25 年 6 月 10 日

5. 回収率

	対象者数	有効回収数	有効回収率
平成 25 年度	5,000 人	1,920 票	38.4%

6. 報告書の見方

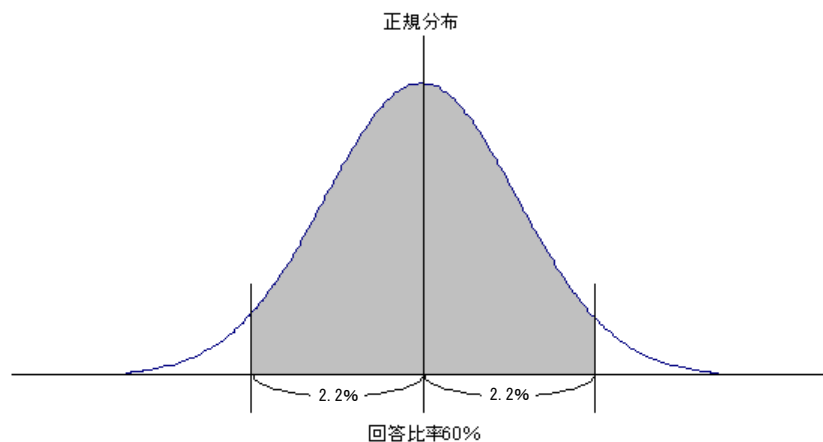
- ・調査数（N=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答等の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。そのため、構成比の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多岐選択式の質問においては、すべての選択肢の比率を合計すると100%を超える。
- ・標本誤差^{※1}は下記の通りである。
等間隔抽出法^{※2}の標本誤差は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差} = 2 \sqrt{\{(N-n)/(N-1)\} \times \{p \times (1-p)/n\}}$$

※N=母集団 n=比率算出の基数（サンプル数） P=回答比率

n	p	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,920		±1.4%	±1.8%	±2.1%	±2.2%	±2.3%
1,000		±1.9%	±2.5%	±2.9%	±3.1%	±3.2%
500		±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
200		±4.2%	±5.7%	±6.5%	±6.9%	±7.1%
100		±6.0%	±8.0%	±9.2%	±9.8%	±10.0%
50		±8.5%	±11.3%	±13.0%	±13.9%	±14.1%

表の見方：ある設問の回答者数が1,920で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも2.2%以内（57.8～62.2%）とみることができる。
また、標本誤差の幅は、比率算出の基数（n）及び回答比率（P）によって異なる。



※1 標本誤差：標本調査の結果として得られた推計値の正確さを表す数値。この場合の標本調査は調査の客体を無作為に選んだものでなければならない。

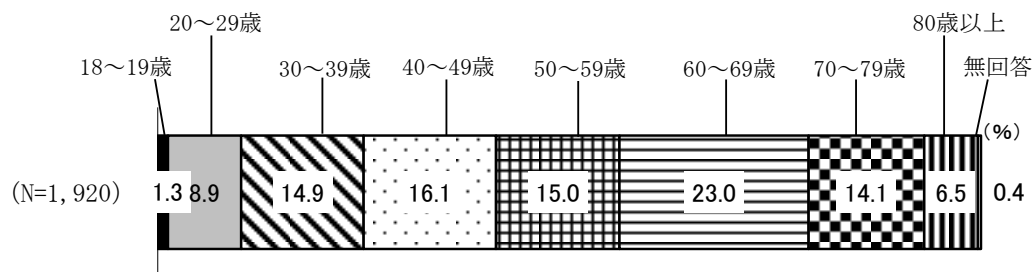
※2 等間隔抽出法：母集団の全てに通し番号をつけ、ランダムに出発番号を決め、一定の間隔毎にサンプルを抽出して行く方法。

7. 回答者の属性

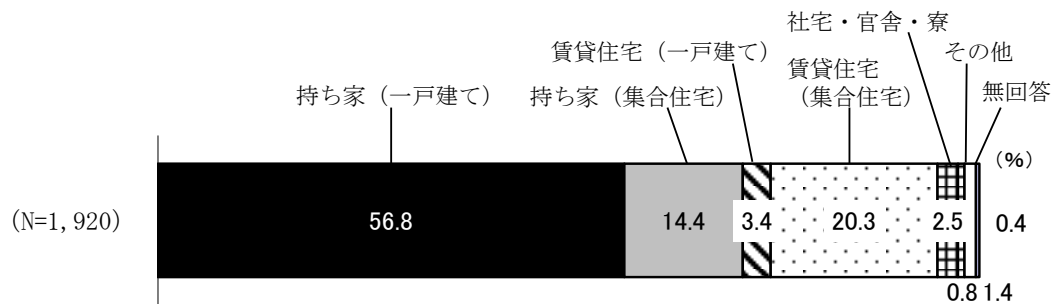
(1) 性別



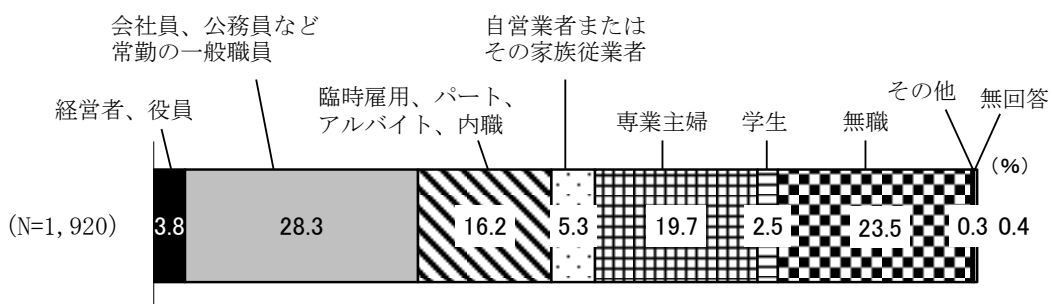
(2) 年齢



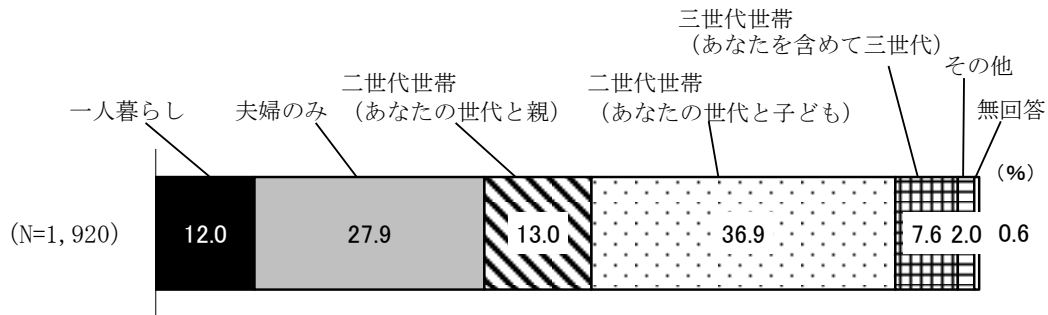
(3) 住居形態



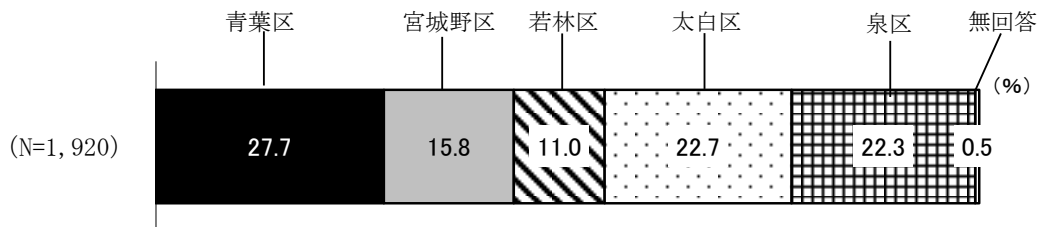
(4) 職業



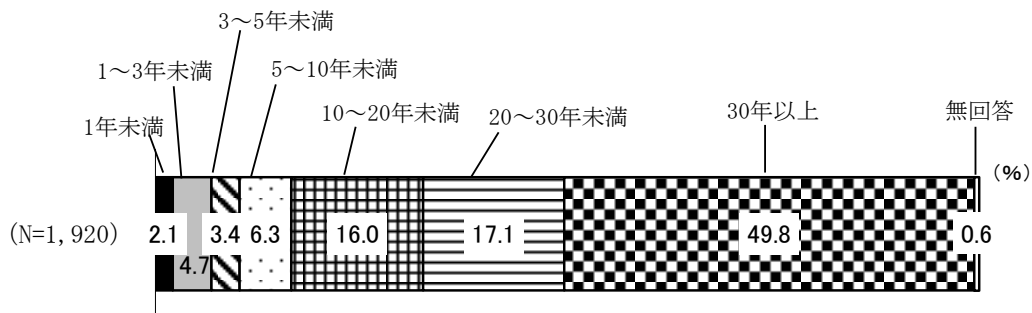
(5) 世帯構成



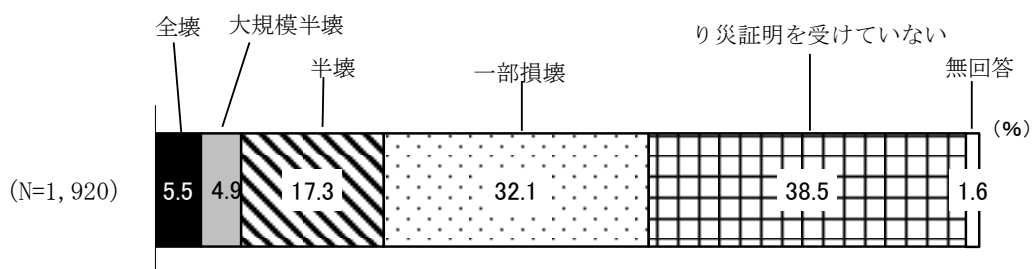
(6) 居住区



(7) 仙台市の居住年数



(8) 「り災証明」の状況



(9) 母集団（仙台市の18歳以上の人口）との比較

	母集団数 (人)	割合 (%)	有効回収数 (票)	割合 (%)
年齢層別				
18～29 歳	149,034	17.2	195	10.2
30～39 歳	159,244	18.3	286	14.9
40～49 歳	152,662	17.6	309	16.1
50～59 歳	125,940	14.5	288	15.0
60～69 歳	133,437	15.4	441	23.0
70～79 歳	90,175	10.4	270	14.1
80 歳以上	58,264	6.7	124	6.5
無 回 答			7	0.4
計	854,838	100.0	1,920	100.0
性別				
男 性	416,335	47.9	837	43.6
女 性	452,421	52.1	1,049	54.6
無 回 答			34	1.8
計	854,838	100.0	1,920	100.0

※母集団数は、平成 25 年 5 月 1 日現在 住民基本台帳による。

II. 調查結果

II. 調査結果

1. 復旧・復興施策

(1) 項目別結果一覧 (P12~13)

「東日本大震災からの復旧・復興施策」の10項目について、進捗状況の4段階評価（1 進んでいる、2 どちらかといえば進んでいる、3 どちらかといえば進んでいない、進んでいない）の結果をまとめている。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧 (P14~15)

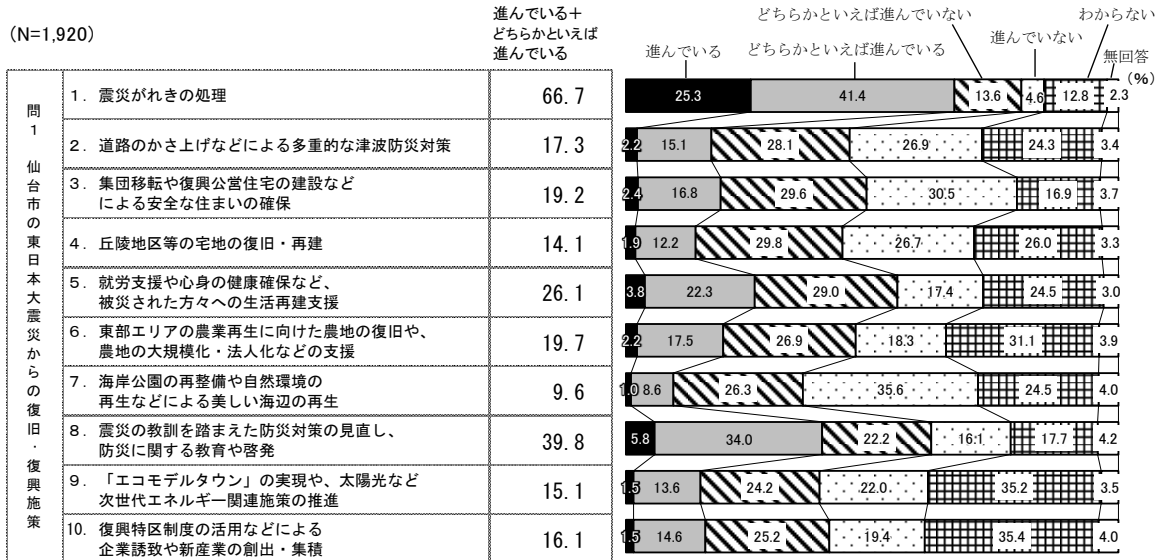
「東日本大震災からの復旧・復興施策」の10項目について、「今後、特に力をいれてくべきと思う施策」の回答結果をまとめている。

(3) 設問別・属性別結果 (P16~20)

「東日本大震災からの復旧・復興施策」の10項目について、調査結果を経年別（平成24年度調査との比較）、年代別に分析している。

(1) 項目別結果一覧

問1 あなたは、仙台市が進めている震災からの復旧・復興に向けた取り組みについて、どのくらい進んでいると思いますか。次の1~10の施策それぞれについて、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。



項目別評価の“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”（上位5項目の経年比較）

	平成 25 年度	平成 24 年度
1位	震災がれきの処理 66.7%	水道、ガス、地下鉄等のライフラインや市民利用施設など公共施設の復旧（※） 86.4%
2位	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 39.8%	震災がれきの処理 31.9%
3位	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 26.1%	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 28.6%
4位	東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援 19.7%	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への総合的な生活再建支援 22.4%
5位	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 19.2%	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 17.8%

※：平成24年度のみ項目

「東日本大震災からの復旧・復興施策」に対する回答については、“進んでいる+どちらかといえど進んでいる”の割合が、平成24年度比で、「1. 震災がれきの処理」が34.8ポイント増加したのを筆頭に、すべての項目で平成24年度のものを上回った。復旧・復興へ向けた様々な取り組みの成果が徐々に形として現れてきていることや、その進捗状況の発信に取り組んできたことなどにより、全体として着実な復興の推進を市民の方々が実感していることが、こうした結果につながっているものと考えられる。

項目別では、「1. 震災がれきの処理」が66.7%と最も高い評価となっている。平成24年度の結果と比較しても、+34.8ポイントと大幅に評価が高くなっており、本市独自の方式により震災のがれき処理が進み、当初予定よりも処理完了が前倒しの見通しとなったことなどが、こうした結果につながっているものと考えられる。

次いで、「8. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」(39.8%)、「5. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援」(26.1%)が続いている。防災対策の見直しについては、仙台市地域防災計画（「共通編」、「地震・津波対策編」）や避難所運営マニュアルの見直しなどの取り組みが進んでいること、生活再建支援については、仮設住宅世帯への全戸訪問による支援者の把握やNPOと連携した就労支援・見守り活動の取り組みが進められていることなどが、こうした結果につながっているものと考えられる。

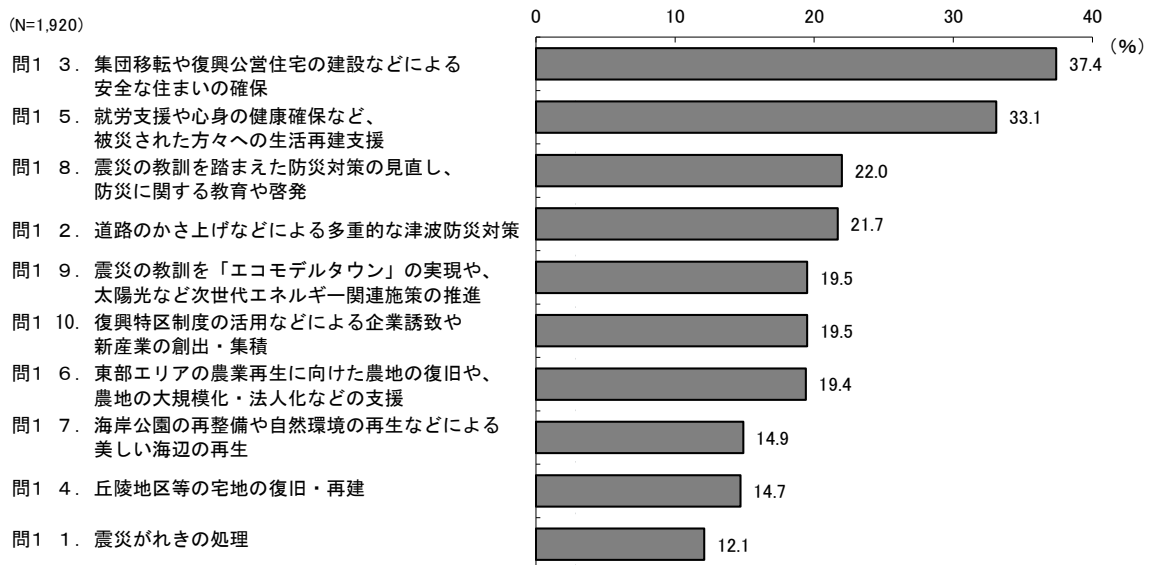
甚大な津波被害を受けた東部沿岸地域や、大規模な地滑りが発生した丘陵地域におけるハード面の取り組みについては、「6. 東部エリアの農業の再生に向けた農地の復旧や農地の大規模化・法人化」(19.7%)、「3. 集団移転や復興公営住宅の建設など安全な住まいの確保」(19.2%)、「2. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策」(17.3%)、「4. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建」(14.1%)、「7. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生」(9.6%)となっている。これらの事業については、これまで被災された方々との合意形成や国等の関係機関との協議調整といった段階にあるものが多いことから、こうした結果につながっているものと考えられる。

また、本年度の新規調査項目である「エコモデルタウンの実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進」(15.1%)は、田子西地区、荒井東地区において、既にエコモデルタウン推進事業者が決定したほか、藻類バイオマス研究・開発のための取り組みや避難所等への防災対応型太陽光発電システムの導入が進められているが、“わからない+無回答”の割合が38.7%と高く、全市的には施策の認知度が低いことを示している。

上位5項目について、平成24年度との比較を見ると、平成25年度においても設問から除外した公共施設の復旧を除く4項目が引き続き入っており、概ね同様の傾向である。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧

問1 今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。(○は複数可)



今後特に力をいれるべき施策（上位5項目の経年比較）

	平成 25 年度	平成 24 年度
1位	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 37.4%	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への総合的な生活再建支援 36.0%
2位	就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援 33.1%	震災がれきの処理 32.6%
3位	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 22.2%	集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保 30.6%
4位	道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策 21.7%	震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発 26.2%
5位	復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積 19.5%	道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策 25.4%

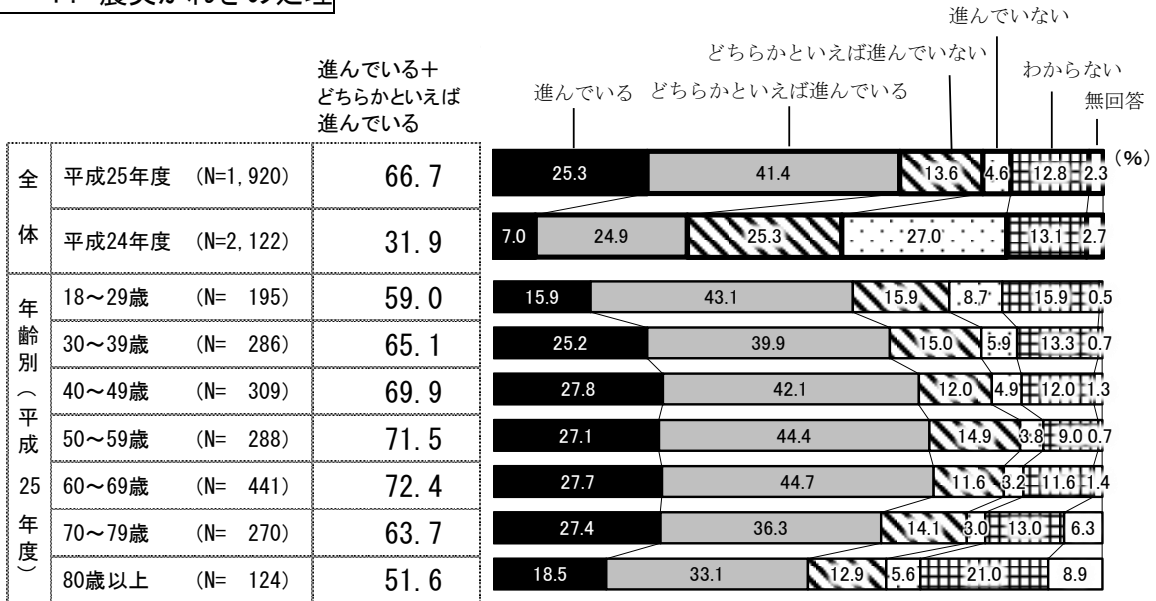
「今後特に力を入れるべき施策」については、「3. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保」(37.4%)が最も多く、次に「5. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援」(33.1%)が続いている。これらは、いずれも東日本大震災によって失われた日常の回復に向けての施策であり、被災者の一日も早い生活再建を願う市民の強い意向が伺われる。

次いで、「8. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発」(22.0%)、「2. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策」(21.7%)の順となっている。これらは、将来に向けて防災力の強化につながる施策であり、災害に対する安全の確保が重要と市民が考えている様子が伺われる。

上位5項目について、平成24年度との比較を見ると、平成25年度においても「震災がれきの処理」を除く4項目が引き続き入っており、概ね同様の傾向である。

(3) 設問別・属性別結果

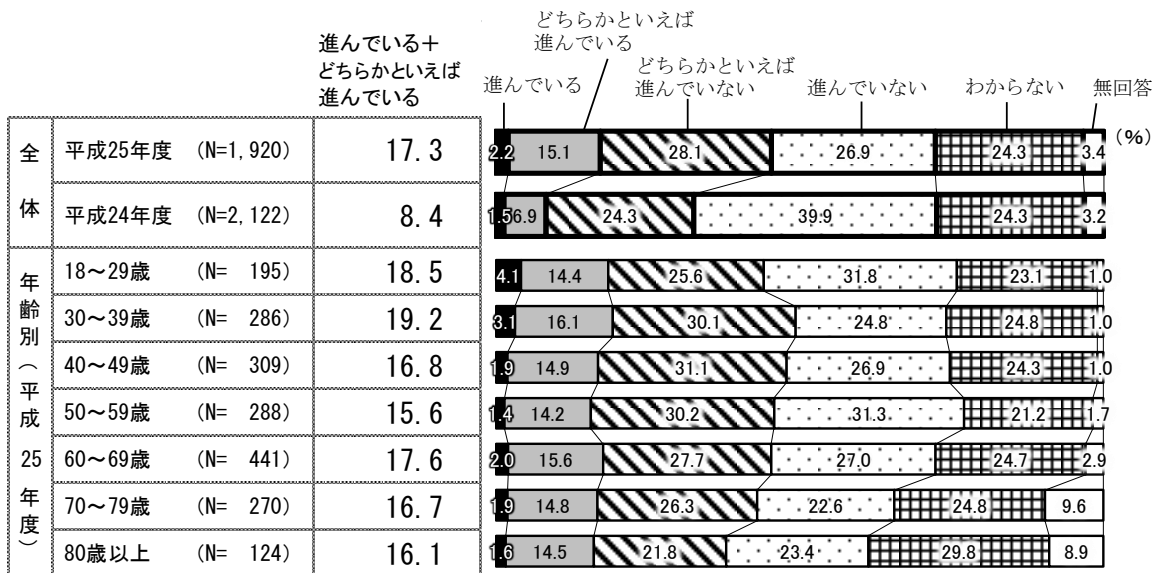
問 1 1. 震災がれきの処理



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が66.7%と非常に高くなっており、平成24年度から大きく伸びている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、70歳未満において年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

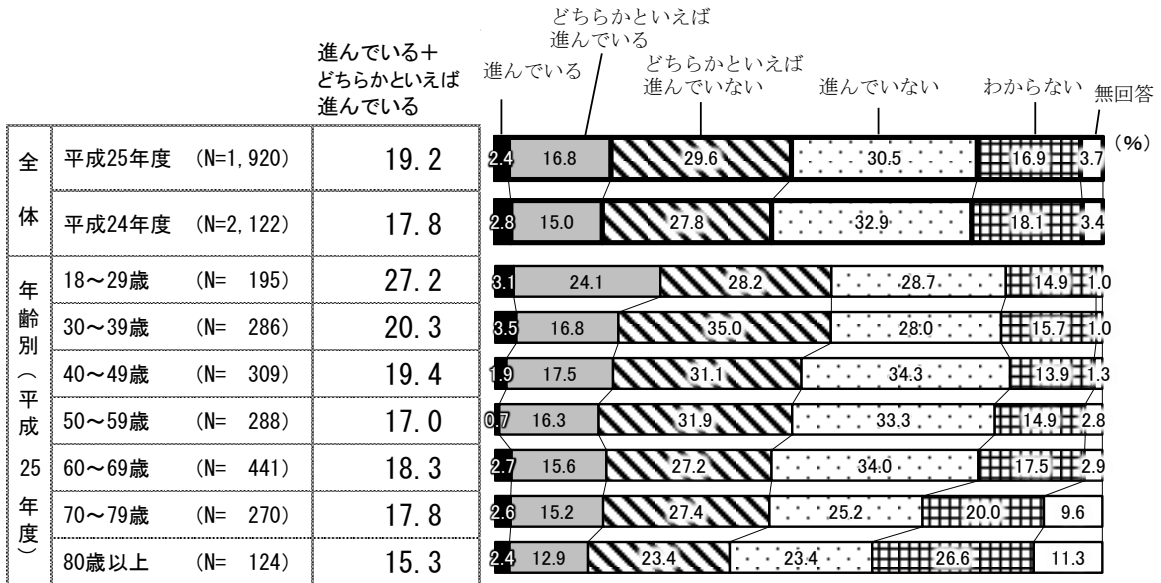
問 1 2. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が17.3%と低いものの、平成24年度よりは8.9ポイント高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が27.7%と高めとなっている。

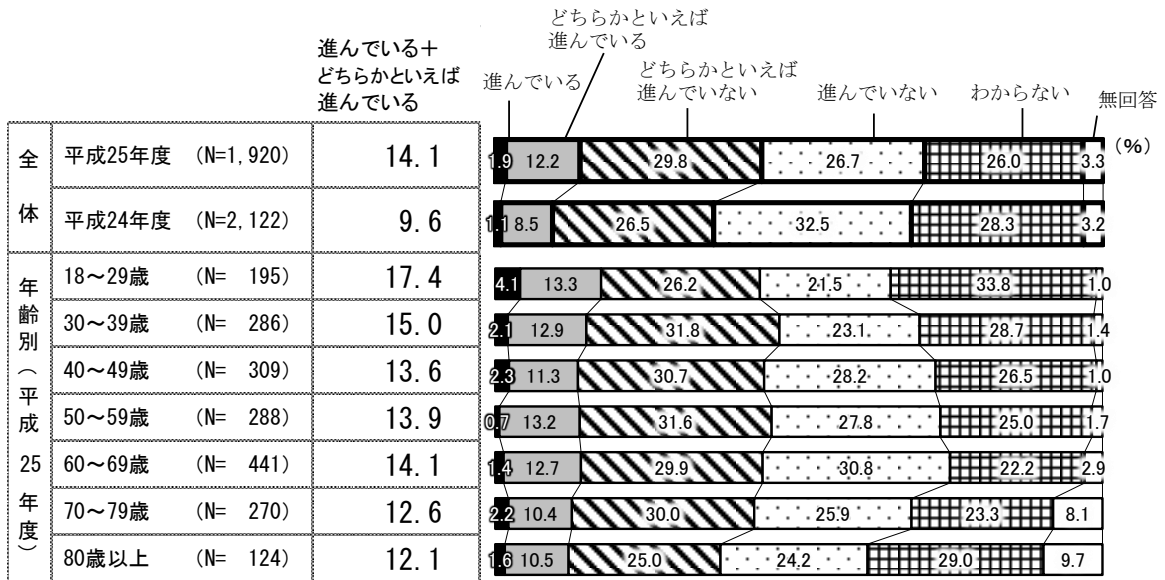
年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合には大きな差異は見られない。

問1 3. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が19.2%と低くなっている。年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られる。

問1 4. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が14.1%と低くなっている。一方、“わからない+無回答”が29.3%と高めとなっている。年齢層別では、“わからない+無回答”の割合が、若年層及び高齢層で高くなっている。

問1 5. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援

(※平成24年度項目：就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への総合的な生活再建支援)

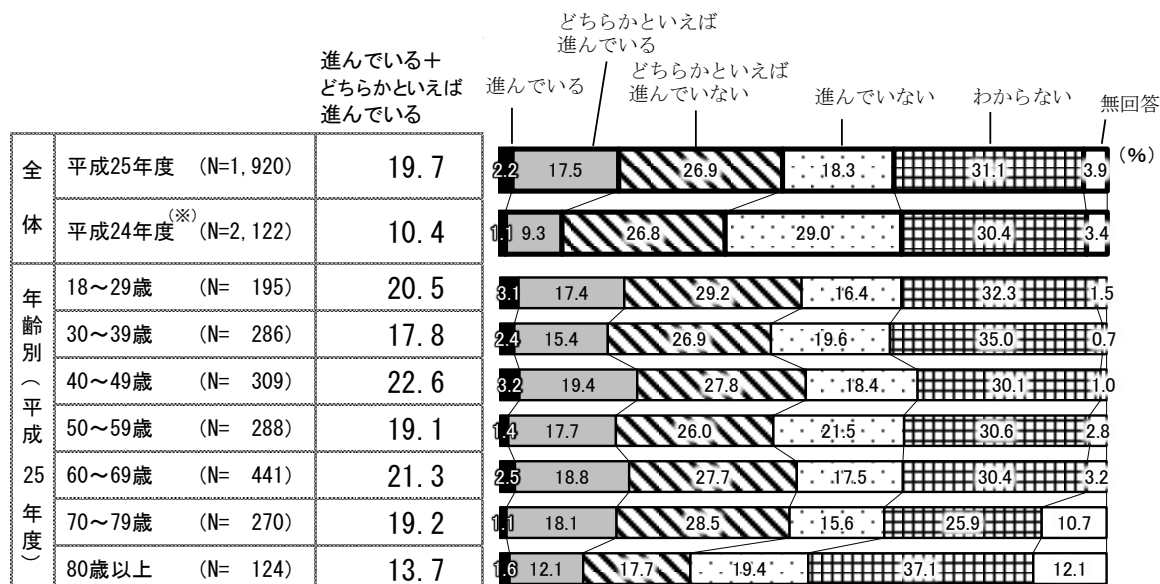


全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が26.1%となっている。一方、“わからない+無回答”の割合が27.5%と高めとなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が、50~59歳、80歳以上でやや低くなっている。

問1 6. 東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援

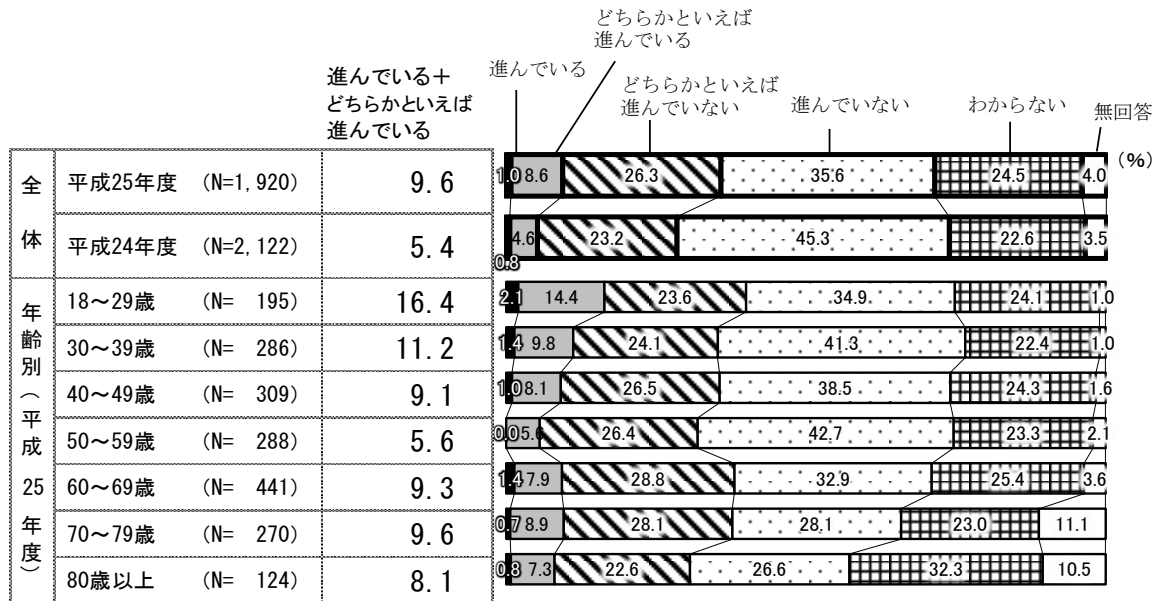
(※平成24年度項目：東部地域の農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援)



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が19.7%と低いものの、平成24年度よりは9.3ポイント高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が35.0%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が40~49歳でやや高くなっており、また、80歳以上で低くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で4割を超えており、高くなっている。

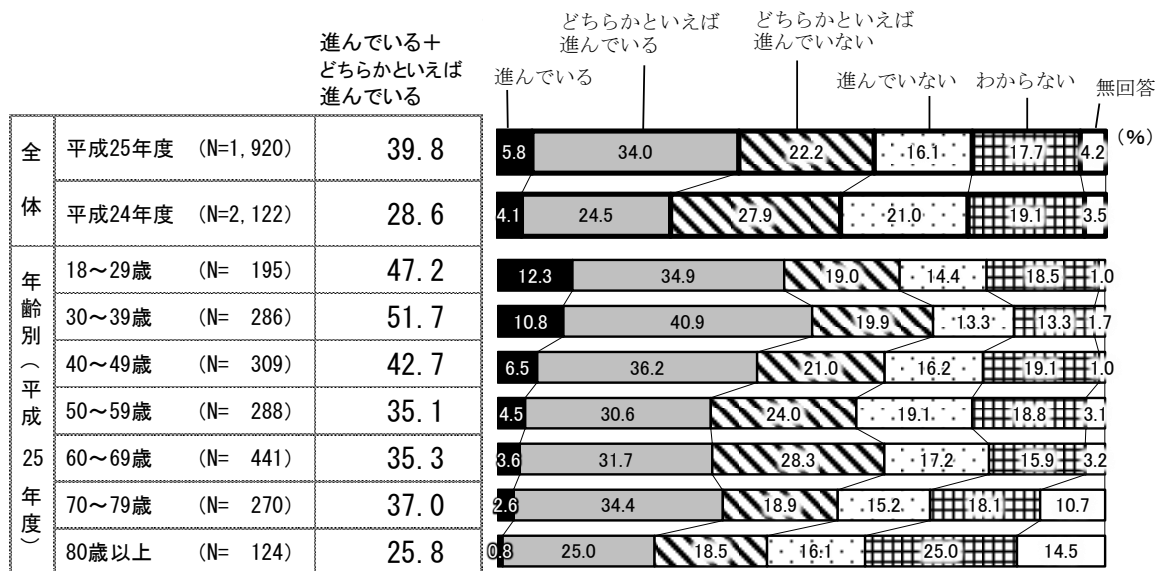
問 1 7. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が9.6%と低くなっている。一方、“わからない+無回答”が25.1%と高めとなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合“が18歳~39歳の若年層では10%を超えている。

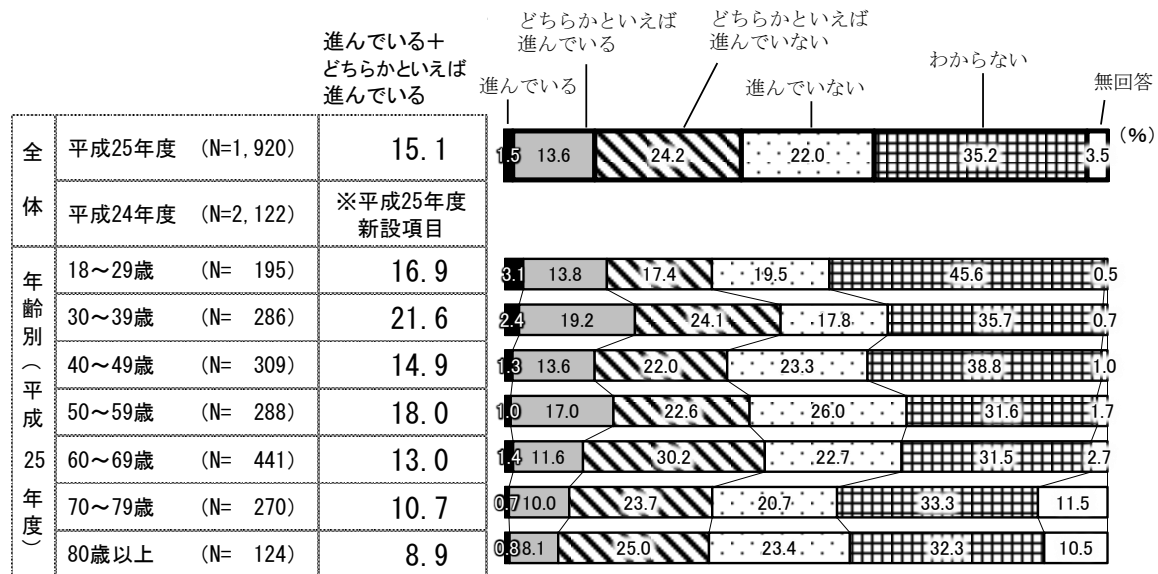
問 1 8. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が39.8%と平成24年度より10ポイント以上高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が若年層において高く、特に30歳代においては5割を超えている。

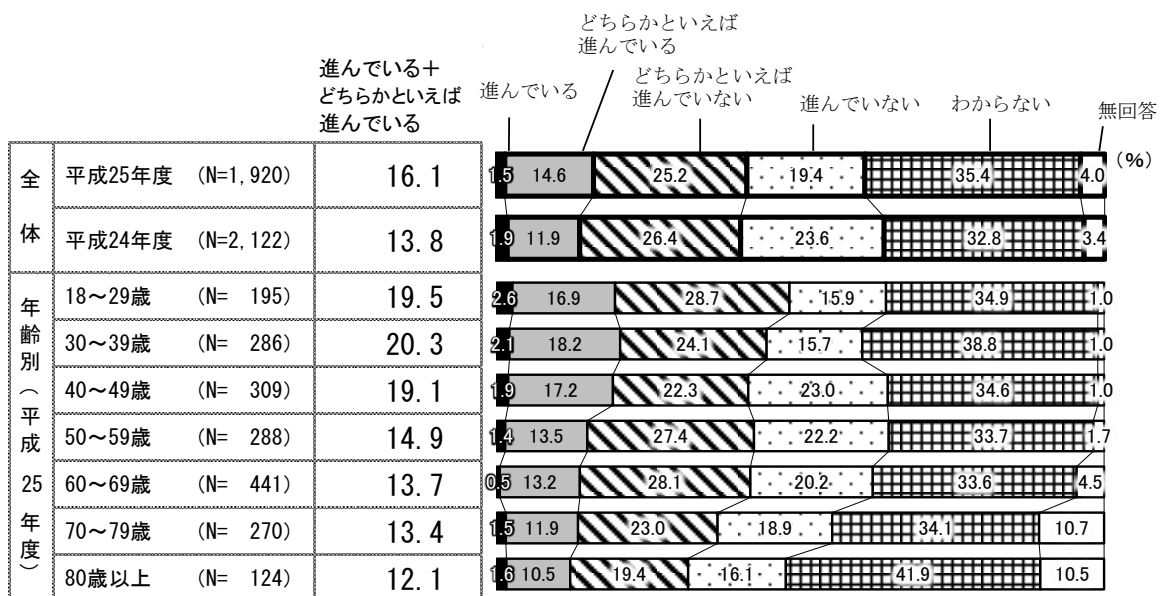
問 1 9. 「エコモデルタウン」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が15.1%と低くなっている。一方、“わからない+無回答”が38.7%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合は概ね18~59歳の年齢層で高い傾向となっている。一方、“わからない+無回答”の割合が若年層及び高齢層で4割を超えており、非常に高くなっている。

問 1 10. 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積



全体では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が16.1%と低くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が39.4%と高くなっている。

年齢層別では、“進んでいる+どちらかといえば進んでいる”の割合が18~39歳の年齢層で高くなっている。

2. 復旧・復興以外の施策

(1) 項目別結果一覧 (P22~25)

「東日本大震災からの復旧・復興施策以外の施策（問2～問9）」の各項目について、4段階評価（1 評価する、2 どちらかといえば評価する、3 どちらかといえば評価しない、評価しない）の結果をまとめている。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧 (P26~27)

「東日本大震災からの復旧・復興施策以外の施策（問2～問9）」の各項目について、「今後、特に力をいれていくべきと思う施策」についての回答結果をまとめている。

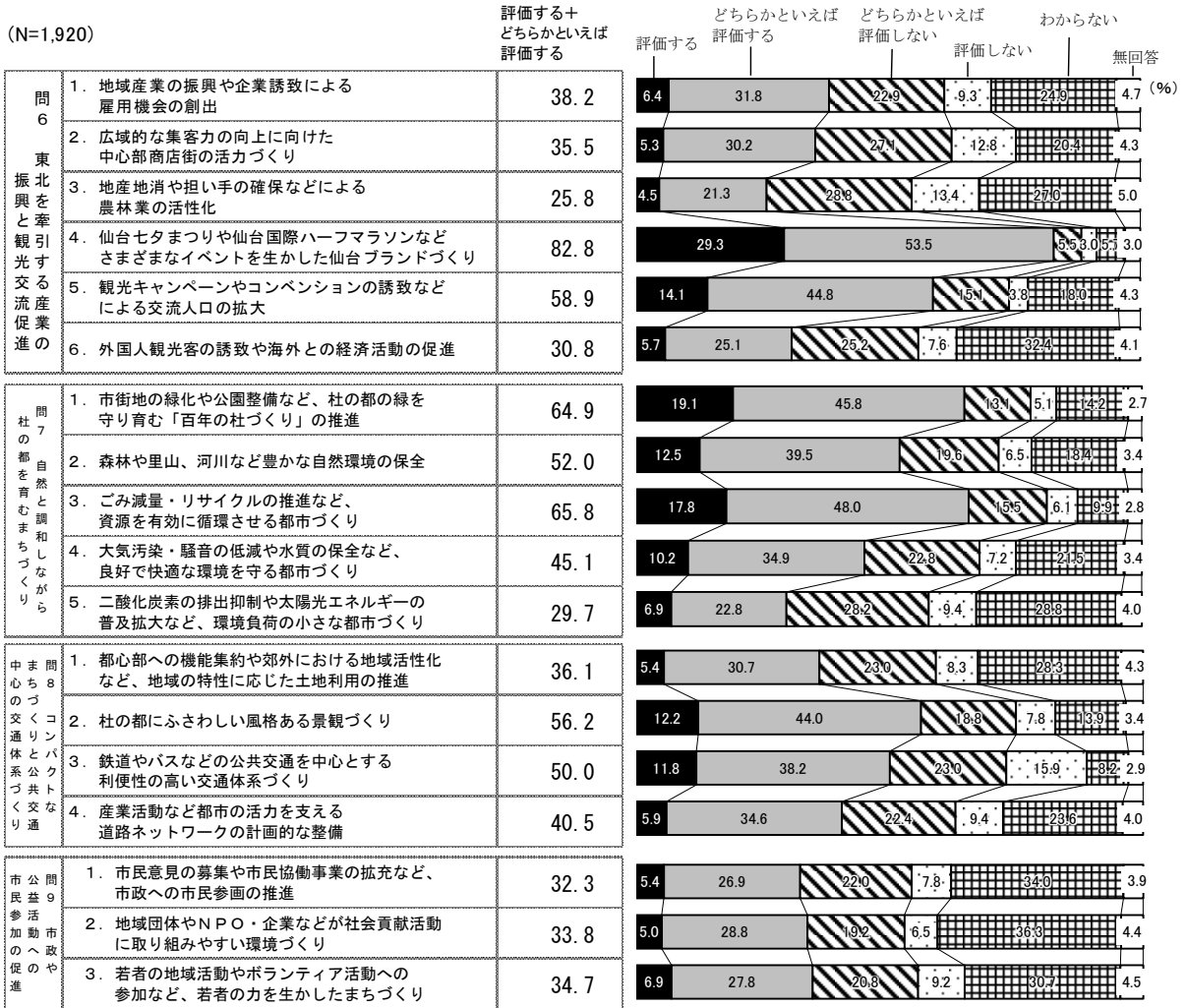
(3) 設問別・属性別結果 (P28~49)

「東日本大震災からの復旧・復興施策以外の施策（問2～問9）」の各項目について、調査結果を経年別（平成24年度調査との比較）、年代別に分析している。

(1) 項目別結果一覧

問2～問9 仙台市の各取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

		評価する+	評価する					無回答
		どちらかといえば	どちらかといえば	どちらかといえば	どちらかといえば	どちらかといえば		
		評価する	評価する	評価しない	評価しない	評価しない		
		評価する	評価する	評価しない	評価しない	評価しない		
問2 健康で安全に暮らせるまちづくり	1. 医療サービスや救急医療体制の充実	55.0	11.0	44.0	17.3	8.9	15.9	3.5
	2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進	57.5	10.7	46.8	16.8	6.0	15.9	3.6
	3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保	38.1	5.5	32.6	23.4	6.6	27.0	4.9
	4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実	34.4	5.8	28.6	32.2	17.9	14.5	4.0
	5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全	35.5	4.7	30.8	27.9	10.9	21.0	4.6
	6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化	32.7	5.0	27.7	29.4	11.6	21.8	4.5
	7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上	48.5	8.4	40.1	20.3	8.4	18.6	4.1
問3 子育て支援や教育環境づくり	1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり	30.6	5.2	25.4	23.9	14.9	26.9	3.9
	2. 児童館の整備やさまざまな体験活動など、子どもたちが明るく元気に育つための環境づくり	44.4	7.3	37.1	17.5	7.7	25.3	4.6
	3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり	36.0	5.7	30.3	17.8	6.3	35.2	4.7
	4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実	27.7	4.3	23.4	20.9	12.6	34.3	4.5
	5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり	33.4	5.5	27.9	22.1	10.1	29.4	5.1
	6. 大学などの人材や知的資源の集積による「学都」を生かしたまちづくり	29.3	4.9	24.4	21.5	11.1	33.0	5.0
問4 自立しても暮らしやすい環境づくり	1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり	37.0	5.3	31.7	24.9	10.6	23.6	4.0
	2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり	36.1	5.7	30.4	26.0	10.4	23.3	4.3
	3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり	28.9	4.9	24.0	27.2	16.0	24.0	3.9
	4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり	27.4	4.8	22.6	25.3	12.0	31.1	4.3
	5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり	29.4	4.8	24.6	21.9	10.2	34.1	4.5
	6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり	26.2	4.4	21.8	21.4	9.4	33.8	4.2
	7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進	23.7	3.8	19.9	25.5	13.7	33.1	4.1
	8. 外国人が暮らしやすい環境づくり	21.1	2.5	18.3	16.0	7.6	51.4	3.9
問5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり	1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり	67.7	19.0	48.7	10.4	4.5	13.8	3.6
	2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に触れられる環境づくり	67.9	22.0	45.9	9.0	3.4	16.0	3.6
	3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり	52.6	9.6	43.0	19.3	5.7	18.2	4.3
	4. スポーツに市民が取り組める環境づくり	50.9	9.6	41.3	19.2	7.6	18.3	4.2
	5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり	69.0	23.3	45.7	10.7	5.3	10.1	3.9



項目別評価の“評価する+どちらかといえば評価する”（上位5項目の経年比較）

	平成 25 年度	平成 24 年度
1位	仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり（※1） 82.8%	まつりやスポーツ大会などさまざまなイベントを活用した仙台の魅力づくり（※1） 71.4%
2位	プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり 69.0%	「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に親しめる環境づくり（※2） 68.2%
3位	「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に親しめる環境づくり（※2） 67.9%	文化センターの整備や各種イベントの開催など、音楽・アート等に市民が取り組める環境づくり 68.0%
4位	文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり 67.7%	市街地の緑化や公園の整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進 66.7%
5位	ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり 65.8%	ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり 66.0%

※1, ※2：各項目内文章を一部変更

「問2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2.生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進」(57.5%)、「1.医療サービスや救急医療体制の充実」(55.0%)が、高い評価を得ている。これは、本市の医療体制や保健事業・健診体制等が一定程度充実していることなどが、こうした評価につながっているものと考えられる。

「6.地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化」(32.7%)については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が8.3ポイント上回っているが、平成24年度比では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が+4.6ポイント、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が-7.2ポイントになっており、東日本大震災以降の市の防災力の向上や災害対応力の強化に係る取り組みについて、一定の評価がなされてきているものと考えられる。

「問3 子育て支援や教育環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2.児童館の整備やさまざまな体験活動など、子どもたちが明るく元気に育つための環境づくり」(44.4%)の評価が最も高く、「3.「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり」(36.0%)が続いている。

「1.保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり」(30.6%)については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が8.1ポイント上回っており、保育に対する需要が、保育環境整備によるサービスの拡大を上回っている状況を反映したものと考えられる。

全体として、“わからない+無回答”の割合が高いが、特に高齢者層でその傾向が見られることから、施策への認知度が反映されているものと考えられる。

「問4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「1.高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり」(37.0%)、「2.介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり」(36.1%)の順に評価が高いものの、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合も同程度となっており、評価が分かれている。

高齢者や障害者を支える環境づくりや男女共同参画に関する項目では、「1.高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり」を除いて“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が上回っており、施策の充実を求める状況が伺われる。

障害者を支える環境づくりや男女共同参画、外国人が暮らしやすい環境づくりについては、“わからない+無回答”の割合が高い傾向にあり、施策の認知度が低いことが伺われる。

「問5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「5.プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり」(69.0%)、「2.「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に親しめる環境づくり」(67.9%)を筆頭に、昨年引き続き、全体として高い評価となっている。これは、せんだいメディアテークをはじめとした多くの文化・スポーツ施設の充実に努めるとともに、「せんくら」や仙台国際音楽コンクール、仙台国際ハーフマラソンなど多くのイベントの実施、大規模国際イベントの招致、プロスポーツ支援などを継続的に推進してきたことが評価された結果と考えられる。

「問6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「4. 仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり」(82.8%)、「5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大」(58.9%)が、高い評価を得ている。平成24年度比でも、それぞれ+11.4ポイント、+6.0ポイントとなっており、四季折々に開催される多彩なまつり・イベントや、大型観光キャンペーン、伊達武将隊などによるプロモーション活動が市民に広く認知されてきていること、また、大規模国際会議の誘致などが、こうした評価につながっているものと考えられる。

その他の経済施策については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合が、同程度か上回っており、さらなる取り組みが期待されていることを表していると考えられる。

「問7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり」(65.8%)、「1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進」(64.9%)が特に評価が高くなっている。これは、「杜の都」としてのこれまでのまちづくりや、キャラクターを活用した広報や紙類定期回収など、これまでのごみ減量・リサイクルへの取り組みなどが評価されたものと考えられる。

「問8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり」(56.2%)の評価が高く、「杜の都」としての良好な都市景観づくりへの取り組みが評価されているものと考えられる。

「3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり」(50.0%)については、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合も38.9%あり、評価が分かれている。

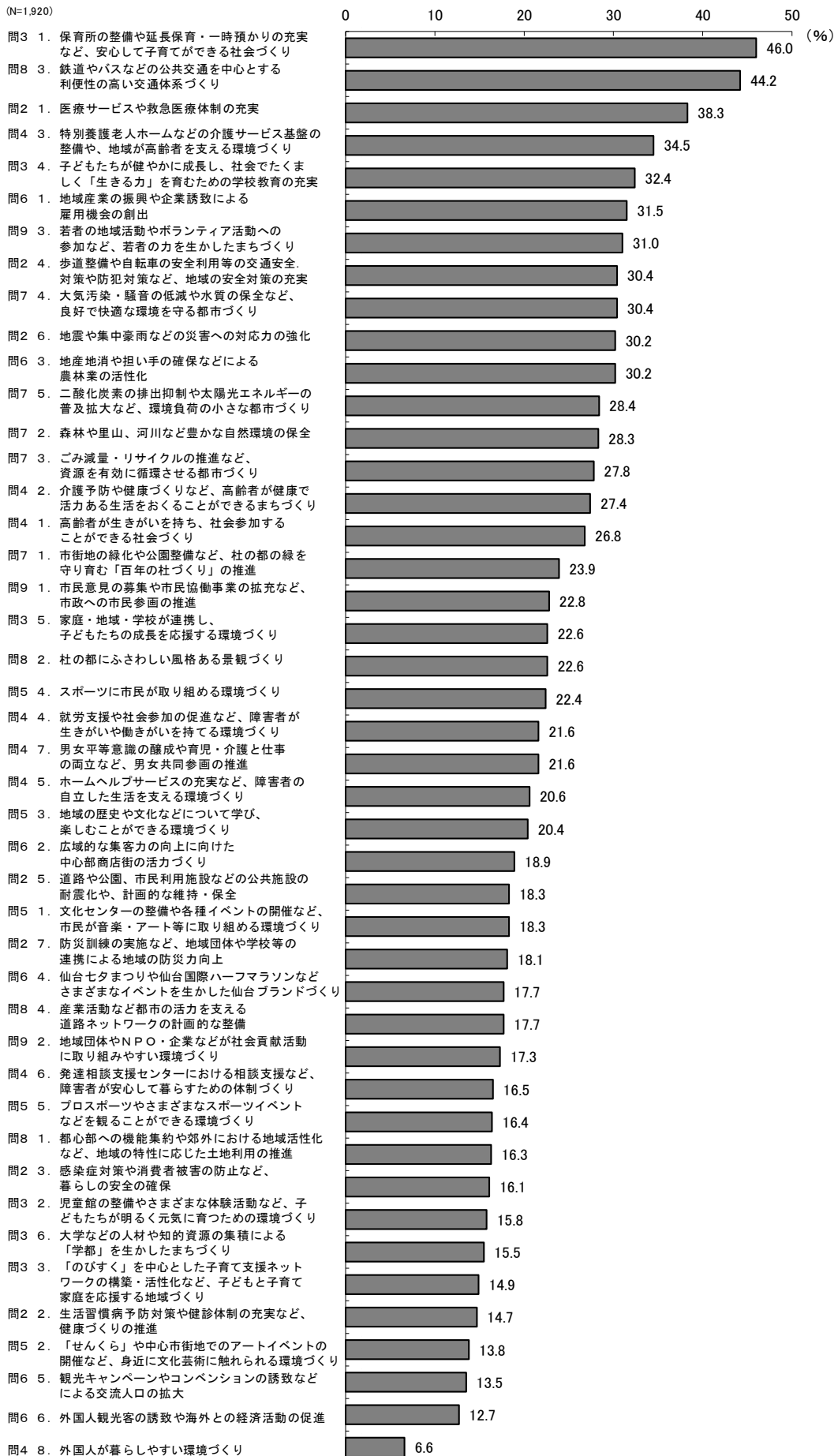
「問9 市政や公益活動への市民参加の促進」の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合を見ると、「3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり」(34.7%)、「2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり」(33.8%)の順に評価が高いものの、“評価しない+どちらかといえば評価しない”の割合もそれぞれ30.0%、25.7%となっている。この施策分野では、“わからない+無回答”の割合が、いずれの項目においても30%を超えており、これらの施策に対する認知度が低いことが伺われる。

【復旧・復興以外の施策】に対する回答について、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合の上位5項目は前頁の表のとおりとなっており、平成24年度に引き続き、文化・スポーツ、ごみ減量・リサイクルに関する取り組みが上位となっている。

平成25年度において2位(69.0%)の「プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり」については、平成24年度の“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が7位(64.4%)、また、平成24年度に4位(66.7%)だった「市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進」は、平成25年度は6位(64.9%)となっており、順位の変動はあるものの、概ね平成24年度と同様の傾向である。

(2) 力をいれるべき施策結果一覧

問2から問9 今後特に力をいれていくべきと思う施策に○をつけてください。(○は複数可)



今後特に力を入れるべき施策（上位5項目の経年比較）

	平成 25 年度	平成 24 年度
1 位	保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり 46.0%	保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり 42.3%
2 位	鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり 44.2%	鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり 39.0%
3 位	医療サービスや救急医療体制の充実 38.3%	地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化 35.6%
4 位	特別養護老人ホームなどの介護サービスの基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり 34.5%	特別養護老人ホームなどの介護サービスの基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり 33.6%
5 位	子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実 32.4%	医療サービスや救急医療体制の充実 32.6%

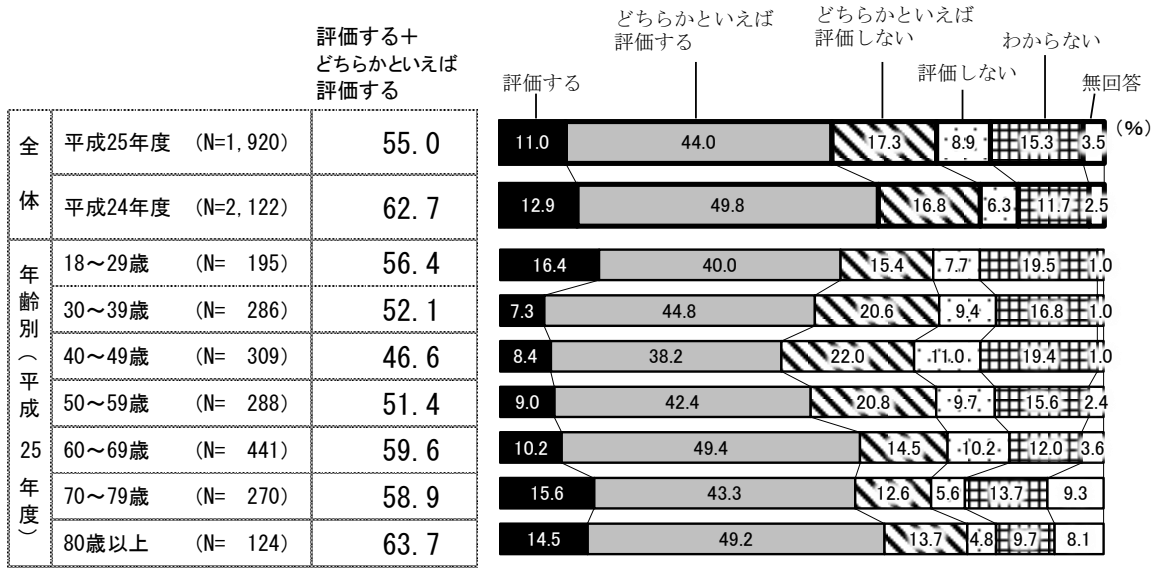
「今後特に力を入れるべき施策」については、「問3 1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり」（46.0%）が平成24年度と同様に最も多く、認可保育所の新たな整備や定員増加など保育環境基盤の整備を重点的に進めているものの、さらなる充実を求められている状況が反映されているものと考えられる。また、4位の「問4 3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり」（34.5%）についても同様の状況と考えられる。

次いで、「問8 3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり」（44.2%）、「問2 1. 医療サービスや救急医療体制の充実」（38.3%）の順となっているが、これらは、取り組みに対する評価がいずれも“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が50%以上と比較的高く、日常の市民生活の利便性の向上や安全・安心の確保に向けての基本的な施策として、さらなる充実が求められていることが伺われる結果となっている。

上位5項目について、平成24年度との比較を見ると、平成25年度においても「地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化」を除く4項目が引き続き入っており、概ね同様の傾向である。

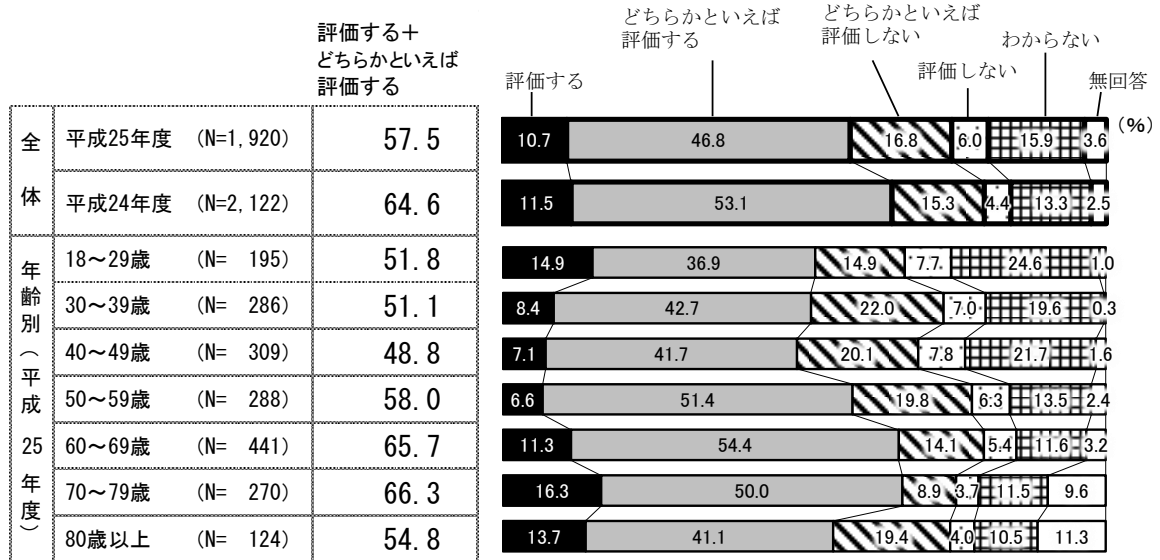
(3) 設問別・属性別結果

問2 1. 医療サービスや救急医療体制の充実



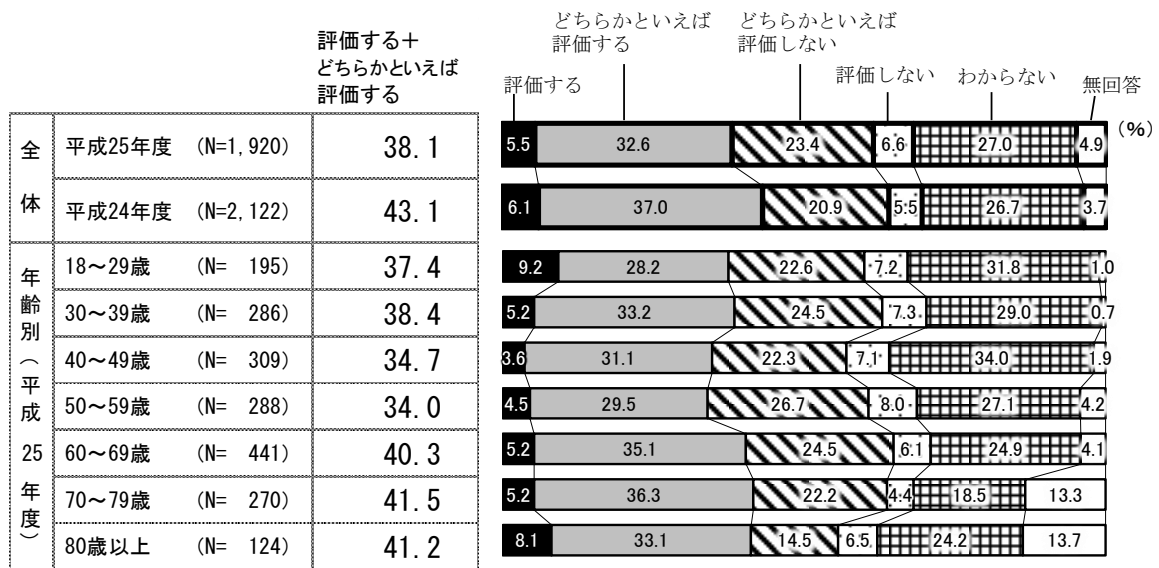
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が55.0%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、40歳代でやや低くなっており、一方、60歳以上の年齢層で高くなっている。

問2 2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が57.5%と高くなっている。
 年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合が18~29歳で他の年齢層より高くなっている。

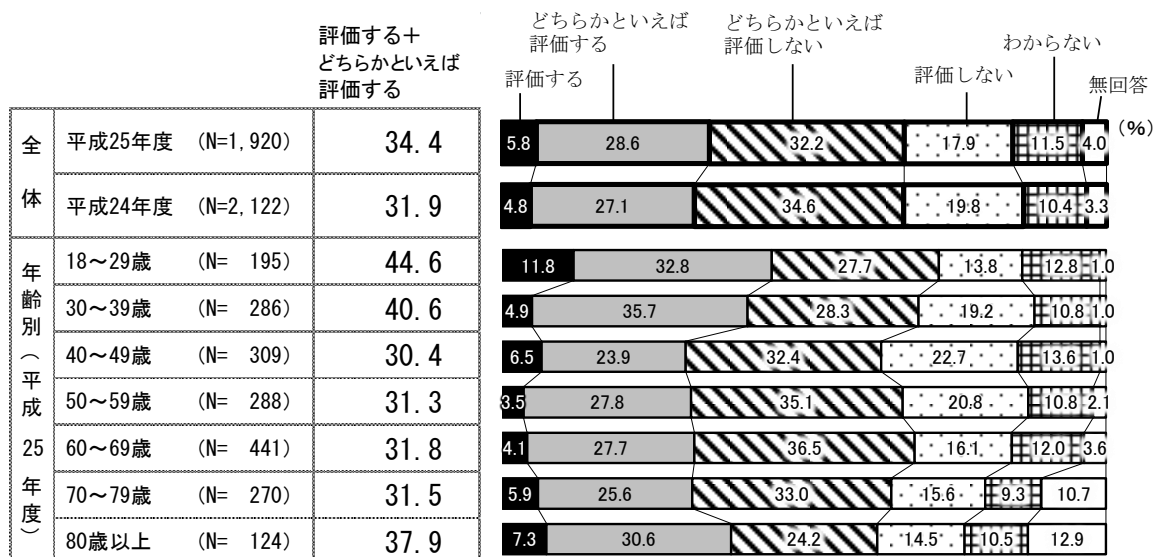
問2 3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が38.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(30.0%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が32.6%と高くなっている。

年齢層別では、高齢層で4割以上が“評価する+どちらかといえば評価する”としており、他の年齢層より評価が高くなっている。

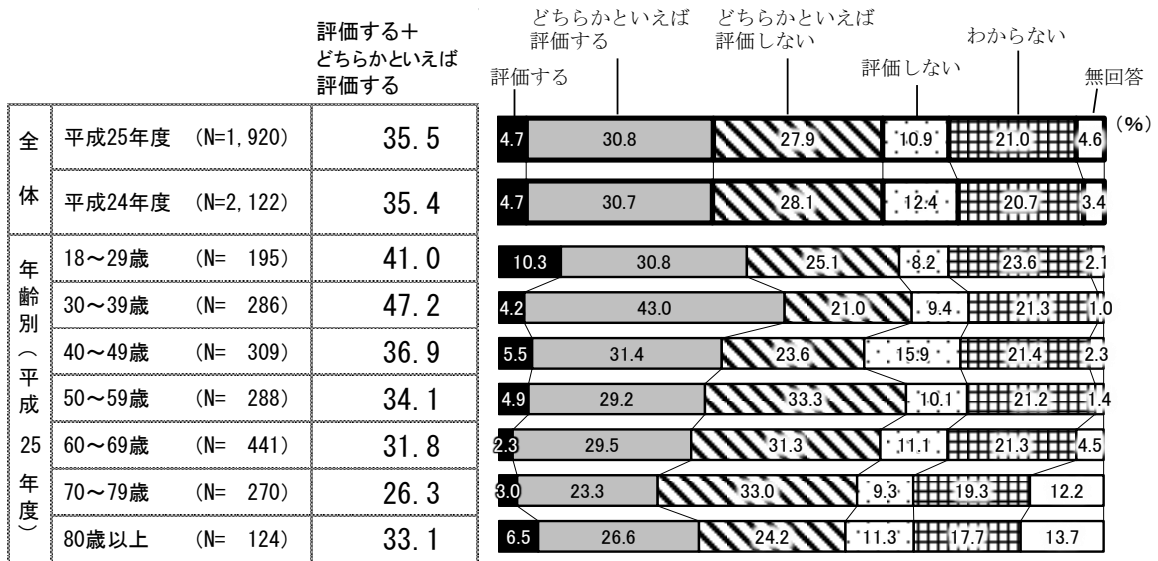
問2 4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が34.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(50.1%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が15.5%と低くなっている。

年齢層別では、若年層で他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に18~29歳は44.6%とその傾向が顕著である。

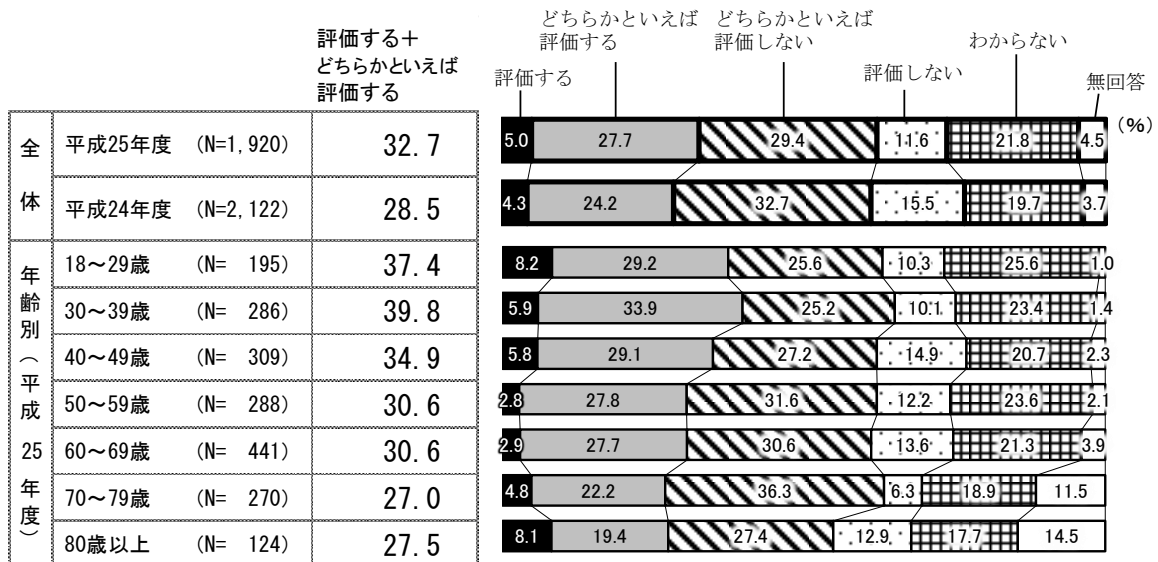
問2 5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が35.5%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(38.8%)を若干下回っている。

年齢層別では、若年層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に30歳代は47.2%とその傾向が顕著である。

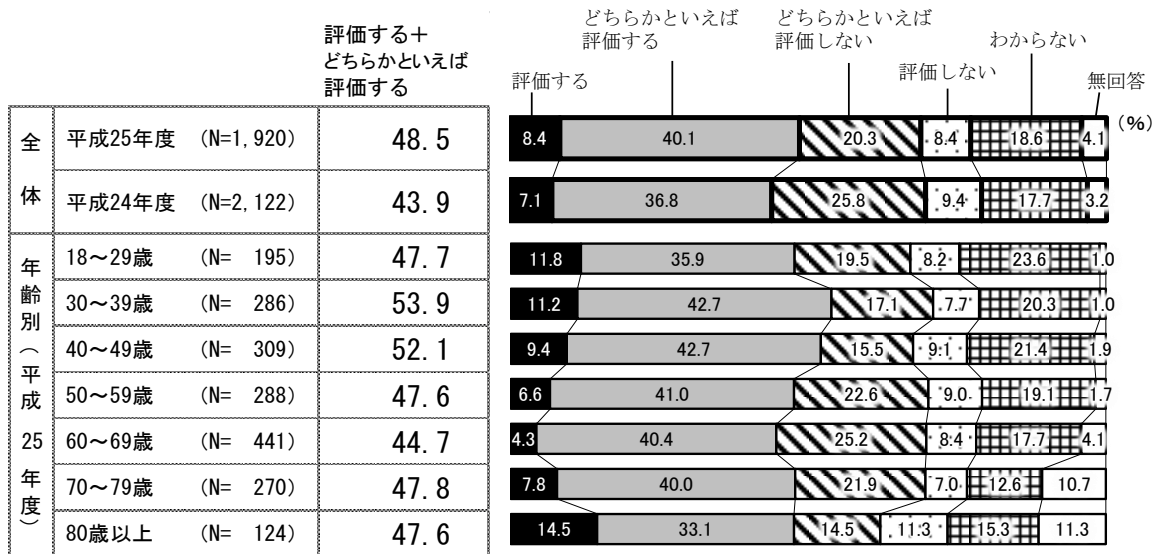
問2 6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が32.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”を下回っている。

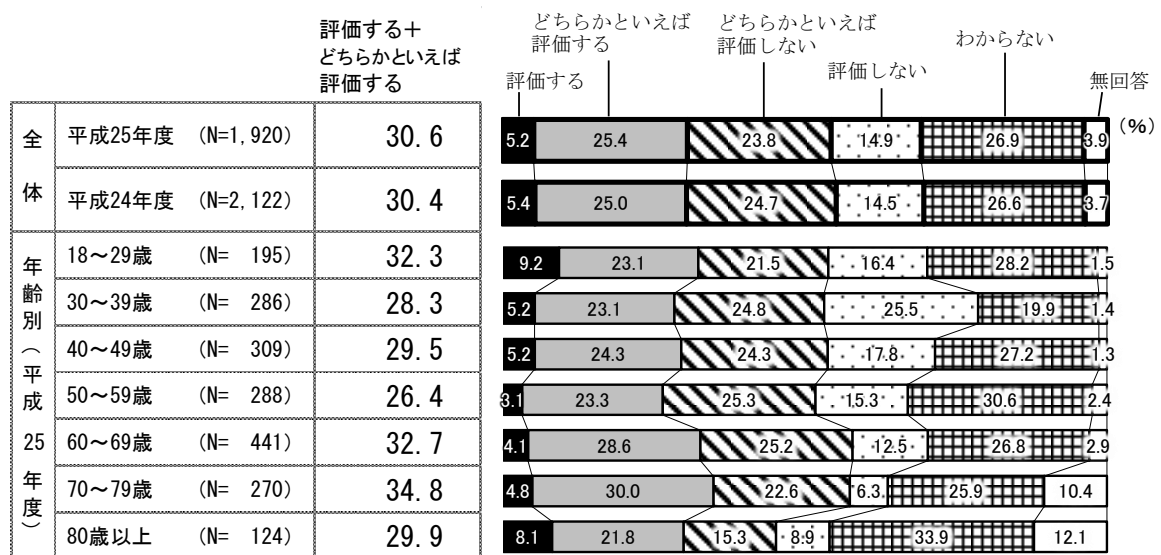
年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られる。

問2 7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が48.5%と高めとなっている。
年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30~40歳代で高くなっている。

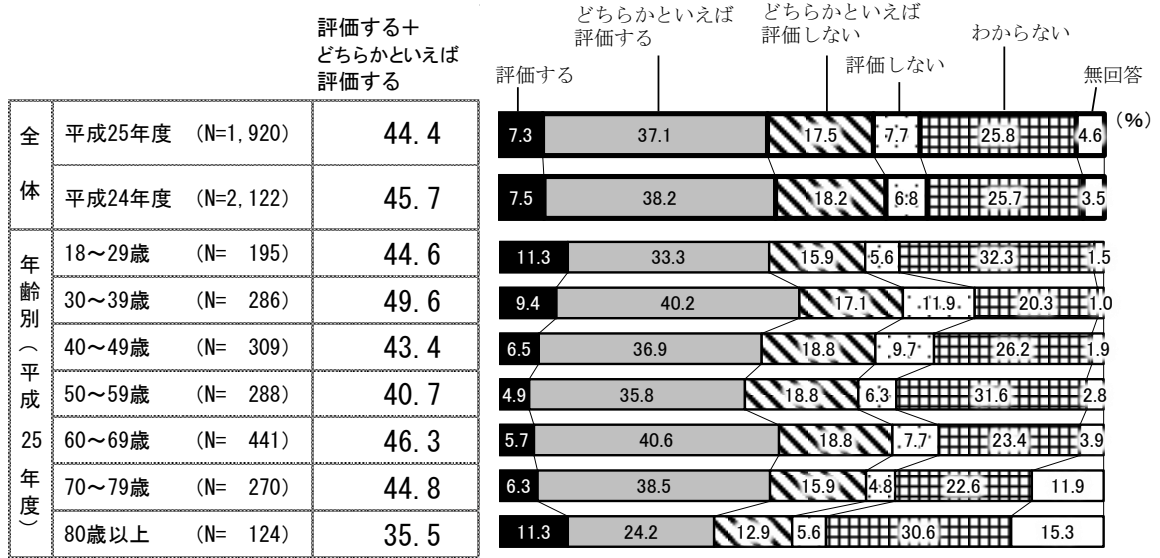
問3 1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30.6%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(38.7%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が30.8%と高くなっている。

年齢層別では、30~59歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30%未満にとどまっており、特に30歳代においては“評価する+どちらかといえば評価する”と“評価しない+どちらかといえば評価しない”の差が大きくなっている。

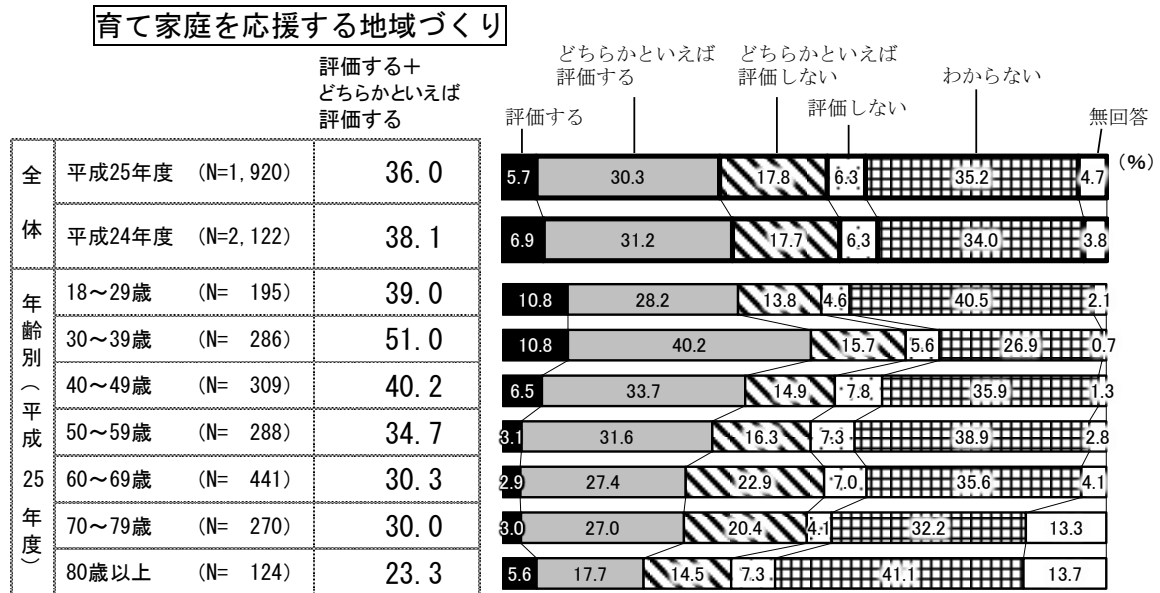
問3 2. 児童館の整備やさまざまな体験活動など、子どもたちが明るく元気に育つための環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が44.4%と高めとなっている。一方、“わからない+無回答”の割合についても30.4%と高くなっている。

年齢層別では、30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が49.6%と最も高くなっている。一方、高齢層ほど“わからない+無回答”の割合が高くなる傾向が顕著となっている。

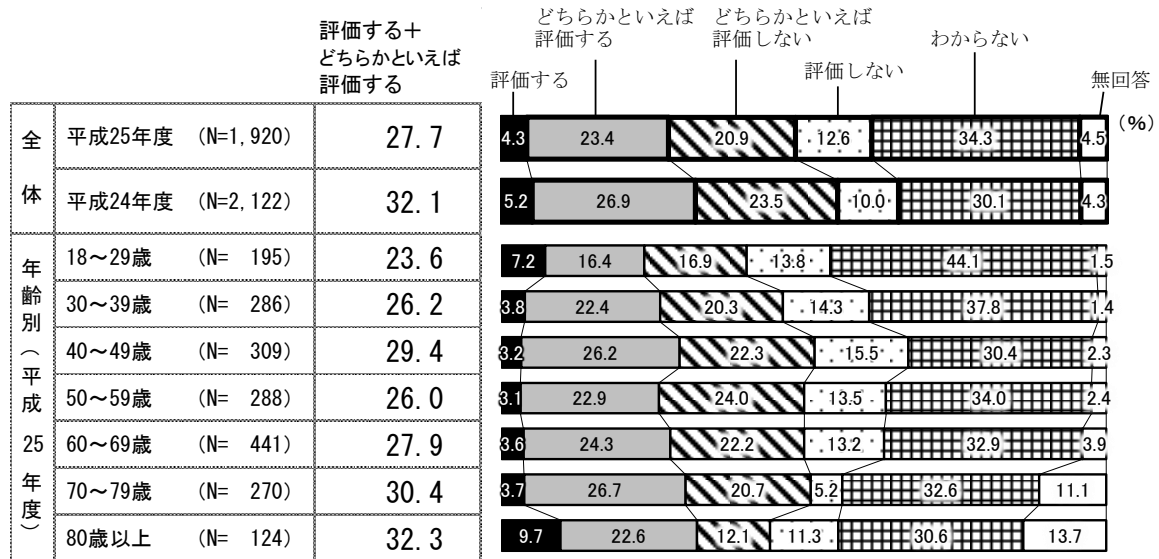
問3 3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が36.0%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(24.1%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が39.9%と高くなっている。

年齢層別では、30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が51.0%と最も高くなっているが、それ以外の年代では、概ね年齢層が高くなるほど低くなる傾向にある。

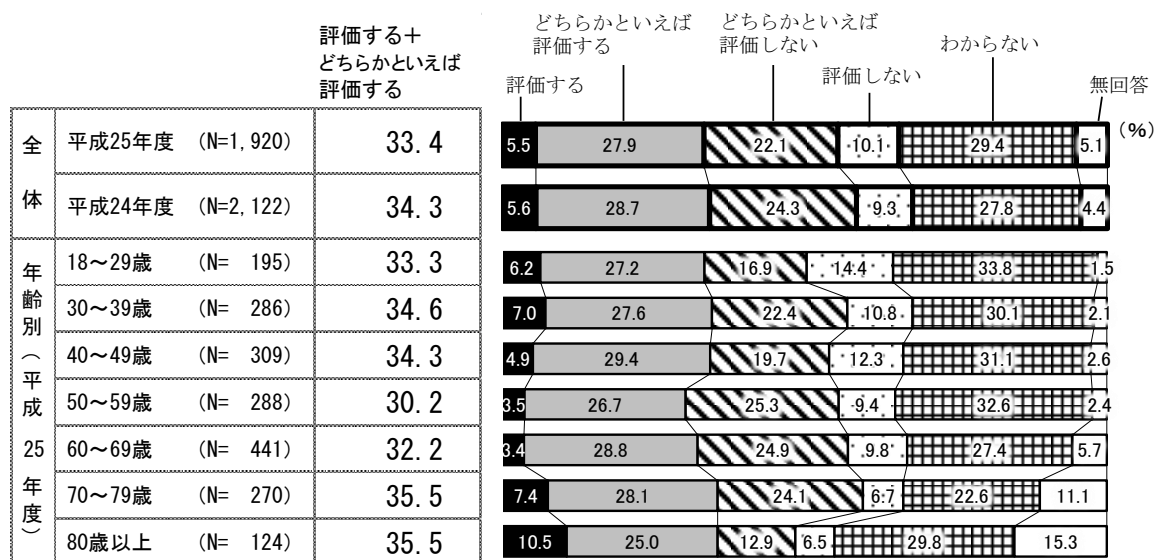
問3 4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が27.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(33.5%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が38.8%と高くなっている。

年齢層別では、70歳以上の年代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高い傾向にある。一方、若年層と高齢層で“わからない+無回答”の割合が高くなっている。

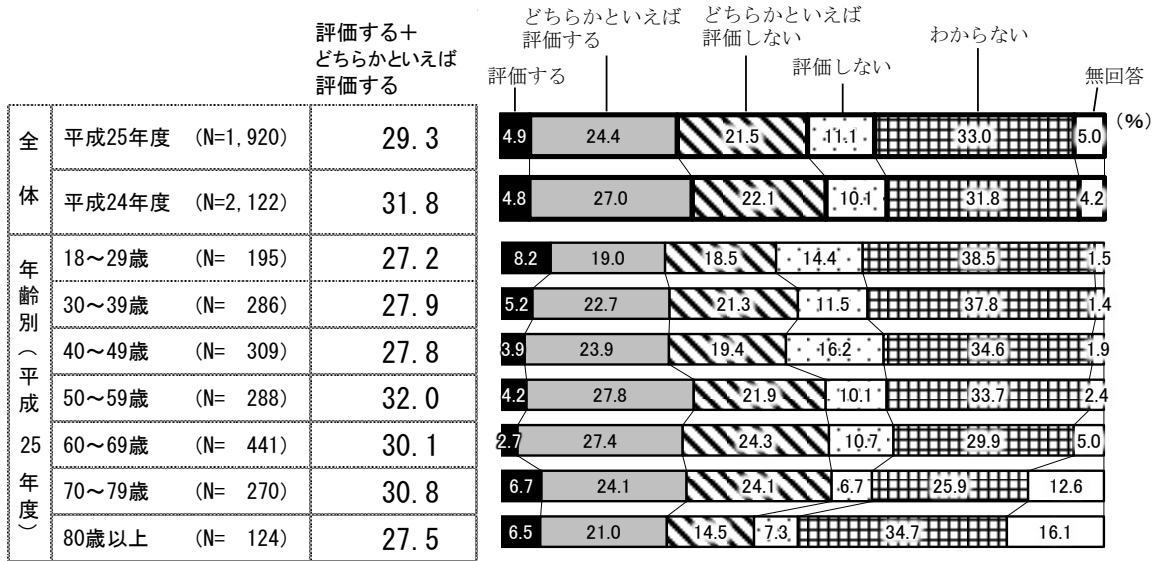
問3 5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が33.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.2%)と拮抗している。また、“わからない+無回答”の割合が34.5%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合に大きな差異は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で他の年齢層より特に高くなっている。

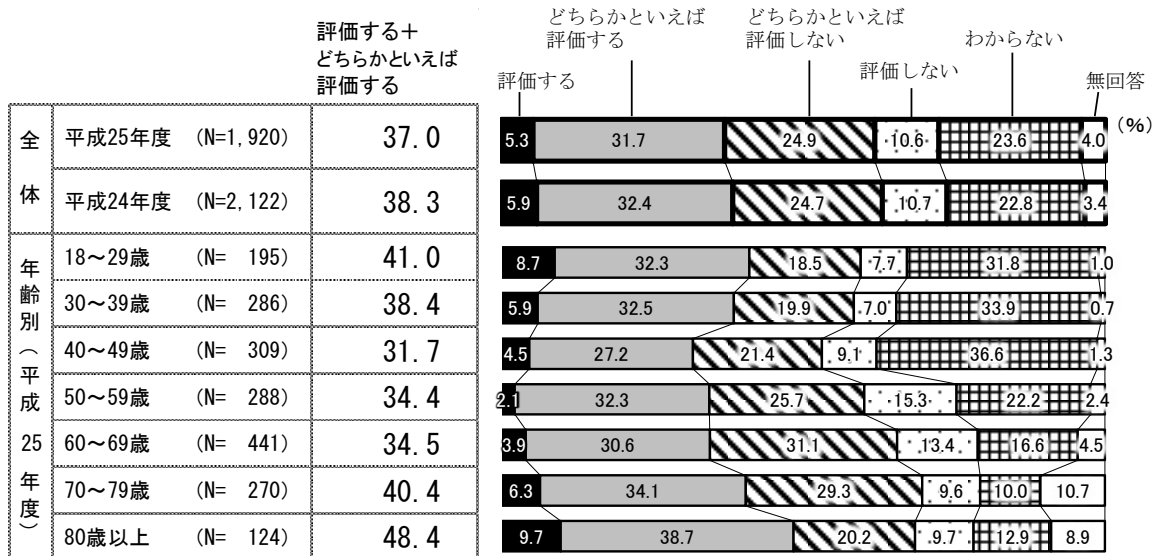
問3 6. 大学などの人材や知的資源の集積による「学都」を生かしたまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が29.3%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.6%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が38.0%と高くなっている。

年齢層別では、50~70歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より若干高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が80歳以上で特に高くなっている。

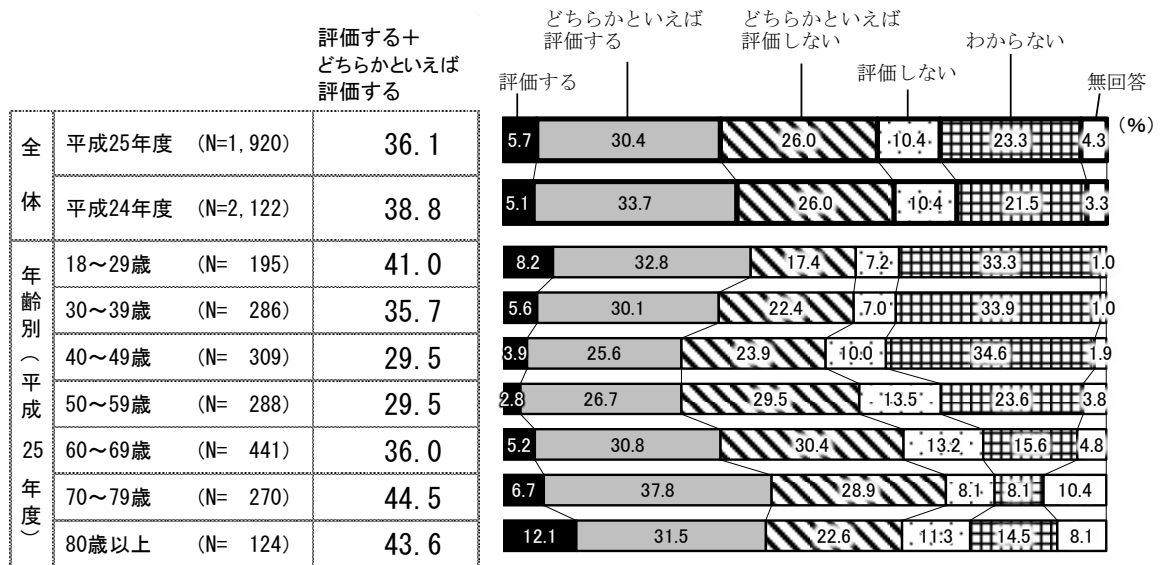
問4 1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が37.0%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(35.5%)と拮抗している。

年齢層別では、若年層のほか、施策の対象の中心となる70歳以上で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高くなっている。一方、“わからない+無回答”が50歳未満の年齢層で高くなる傾向が見られる。

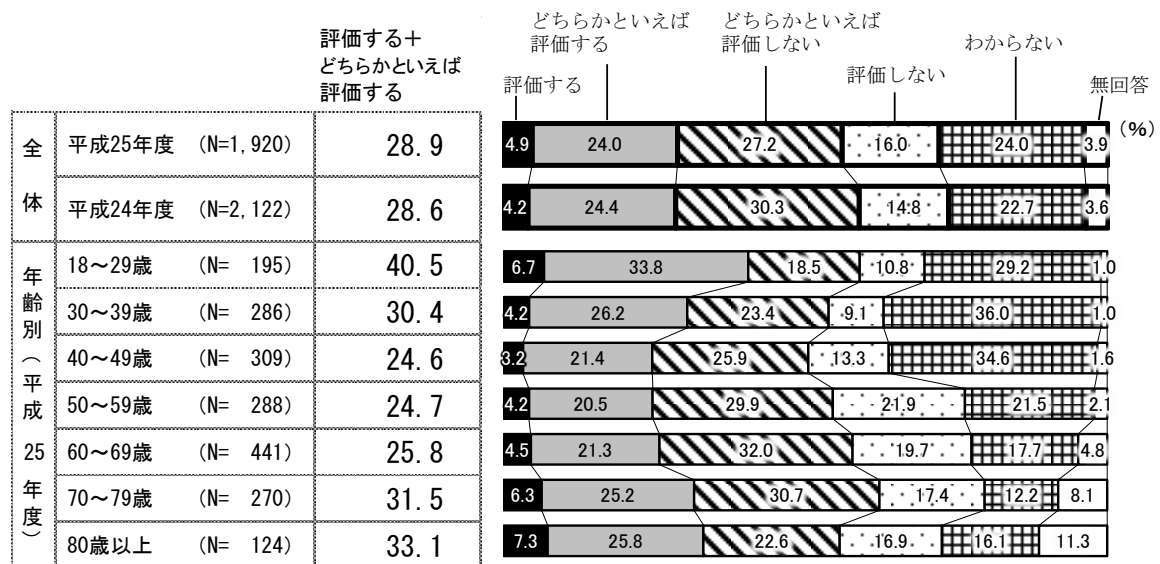
問 4 2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が36.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(36.4%)と拮抗している。

年齢層別では、70歳以上の高齢層で、他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高い一方、40~50歳代においては低くなっている。また、“わからない+無回答”の割合が、50歳未満の年齢層で高くなる傾向が見られる。

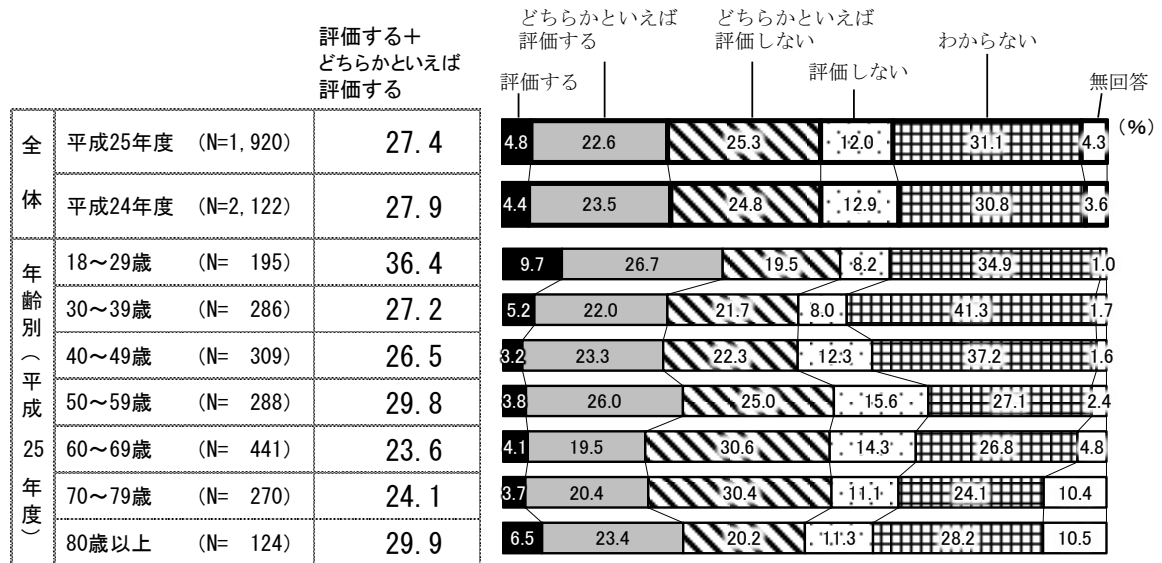
問 4 3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が28.9%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(43.2%)を下回っている。

年齢層別では、40~60歳代で、他の年齢層に比べ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が低くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、50歳未満で高くなっている。

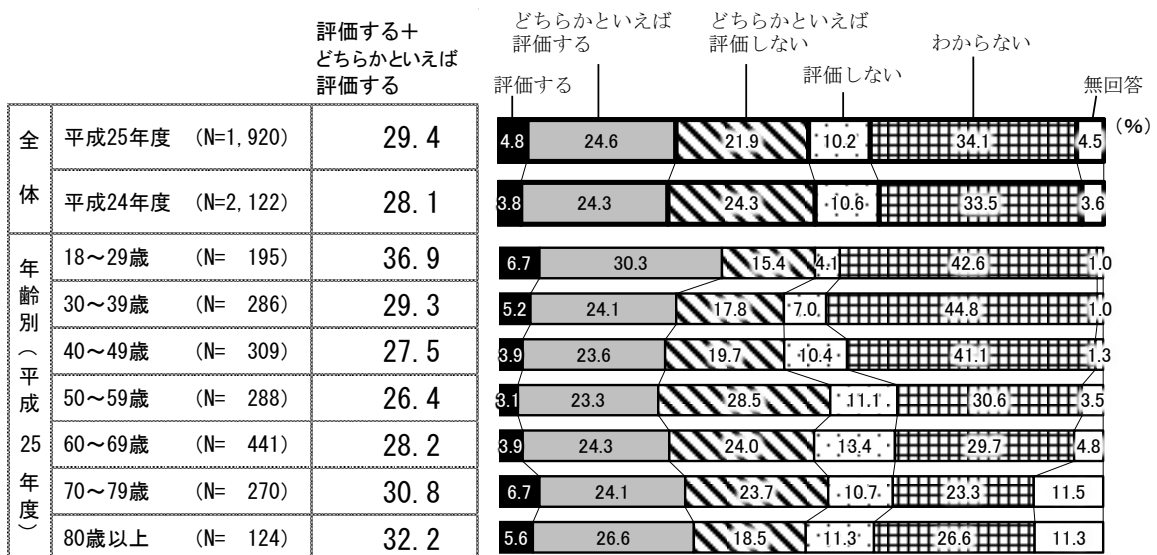
問4 4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が27.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(37.3%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が35.4%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が36.4%となっており、他の年齢層より評価が高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、若年層及び高齢層で高くなっている。

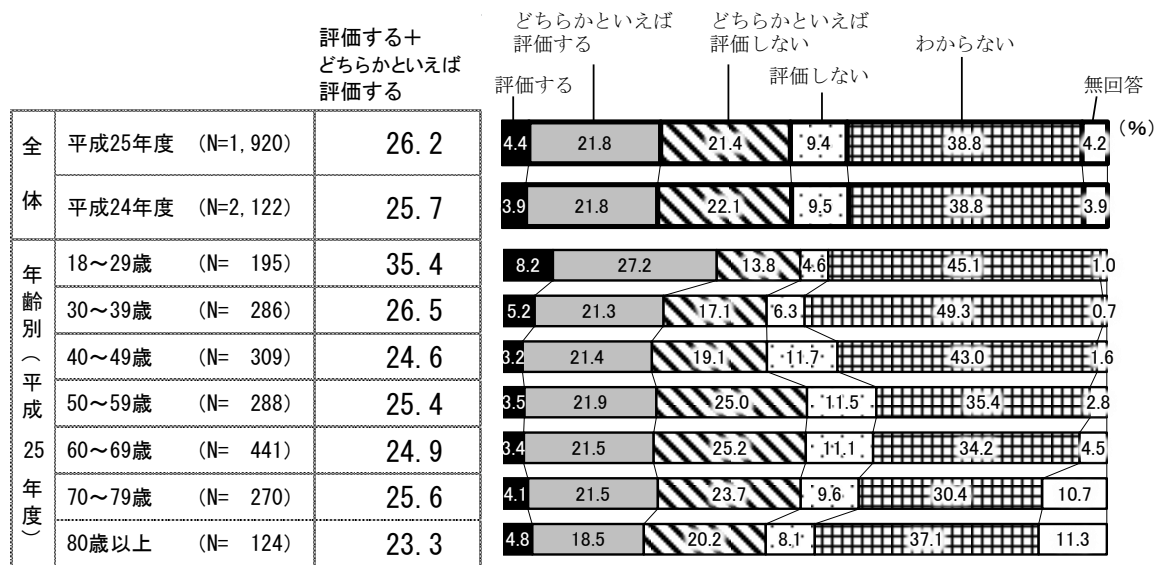
問4 5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が29.4%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.1%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が38.6%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が36.9%となっており、他の年齢層より評価が高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、50歳未満の年齢層で高くなっている。

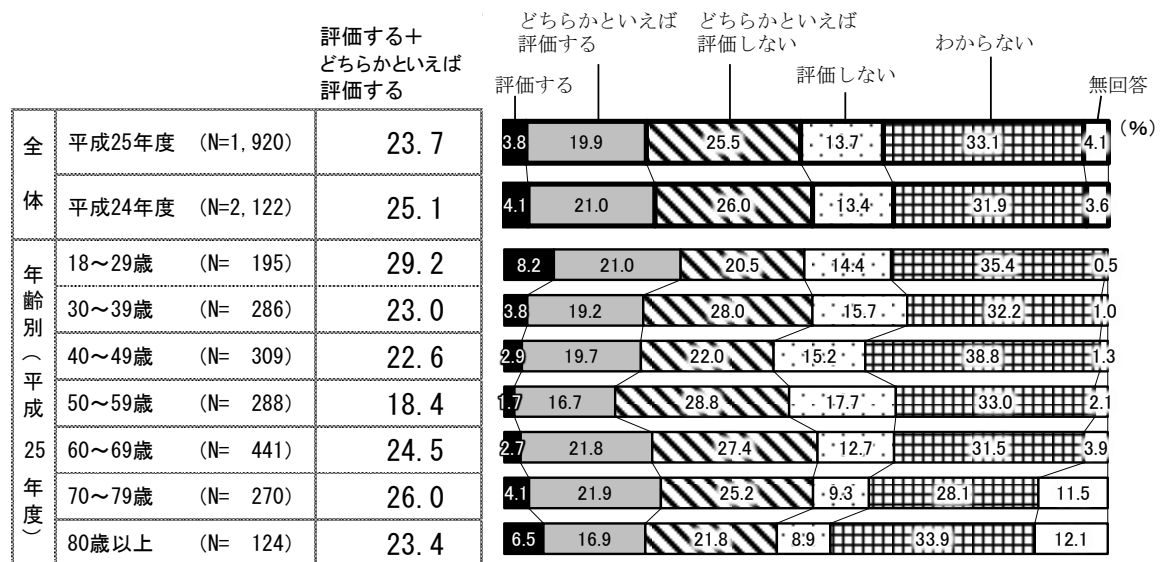
問4 6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が26.2%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(30.8%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が43.0%と非常に高くなっている。

年齢層別では、18～29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が35.4%となっており、他の年齢層より評価が高くなっている。

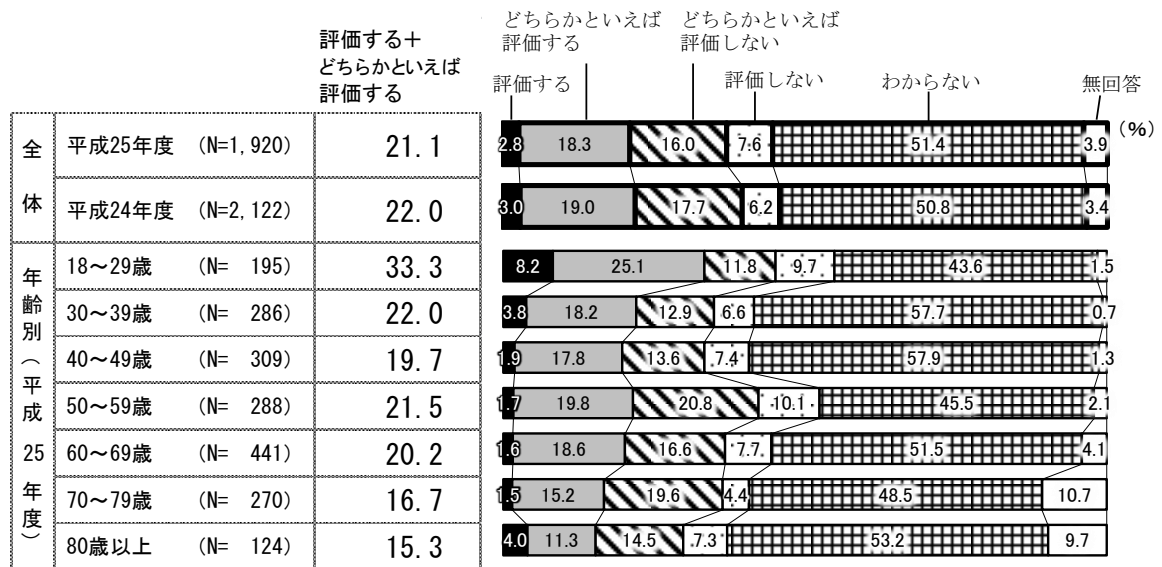
問4 7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が23.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(39.2%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が37.2%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、18～29歳で他の年齢層より若干高めとなっており、50歳代で低くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

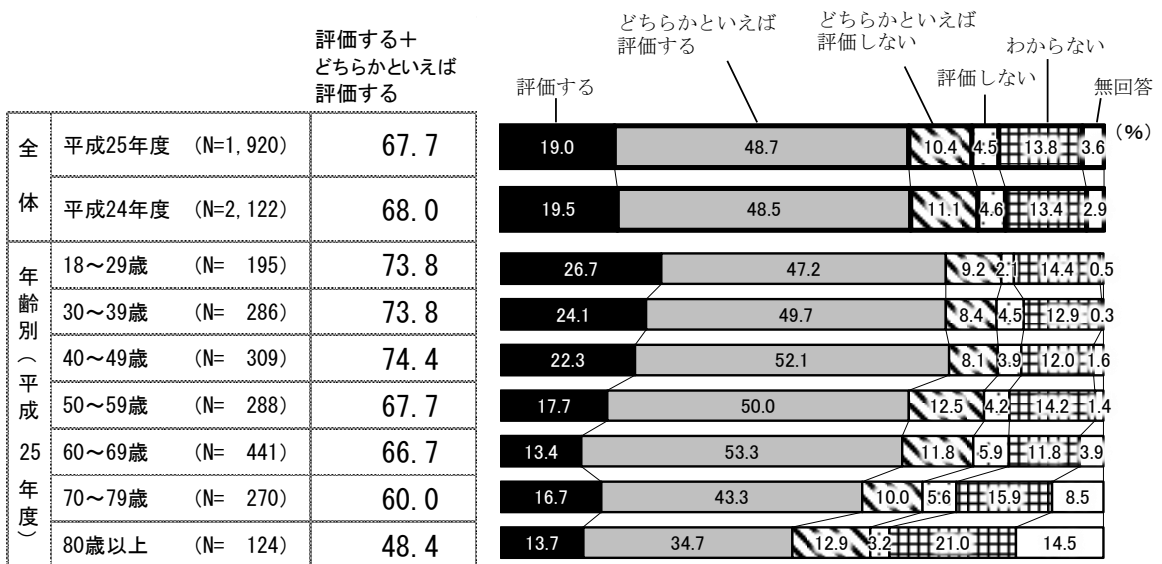
問4 8. 外国人が暮らしやすい環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が21.1%にとどまっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(23.6%)を若干下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が55.3%と非常に高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、概ね年齢層が下がるほど高くなる傾向が見られる。

問5 1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり



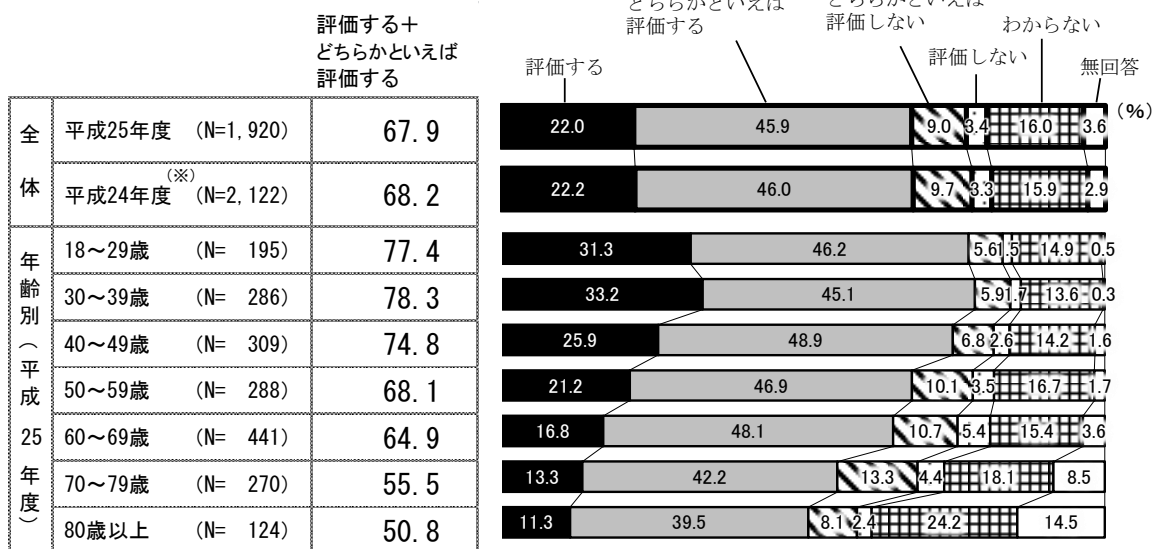
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が67.7%と非常に高くなっている。

年齢層別では、50歳未満で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が7割を超えており、非常に高くなっている。

問5 2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に触れら

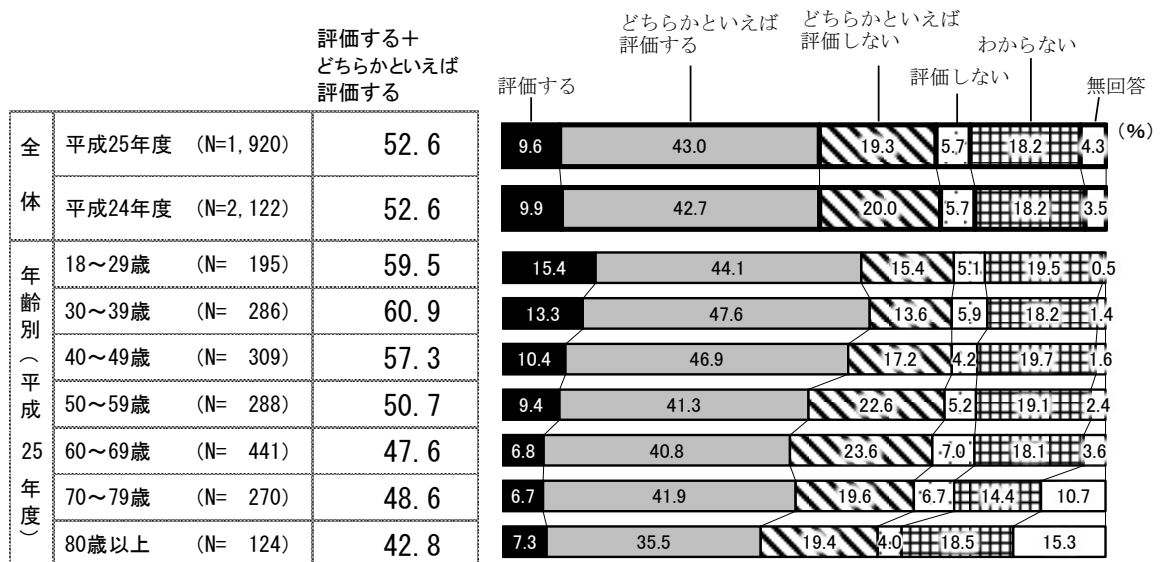
れる環境づくり

(※平成24年度項目:「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に親しめる環境づくり)



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が67.9%と非常に高くなっている。年齢層別では、50歳未満の年齢層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が7割を超えており、非常に高くなっている。

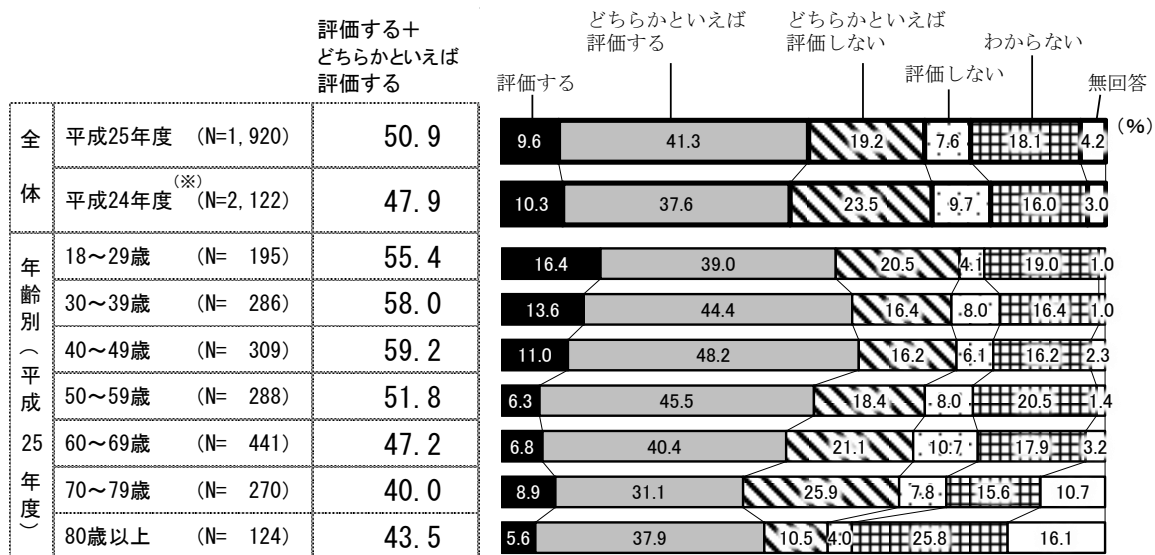
問5 3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が52.6%と高くなっている。年齢層別では、50歳未満の年齢層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高くなっている。

問5 4. スポーツに市民が取り組める環境づくり

(※平成24年度項目：身近にスポーツに取り組める環境づくり)

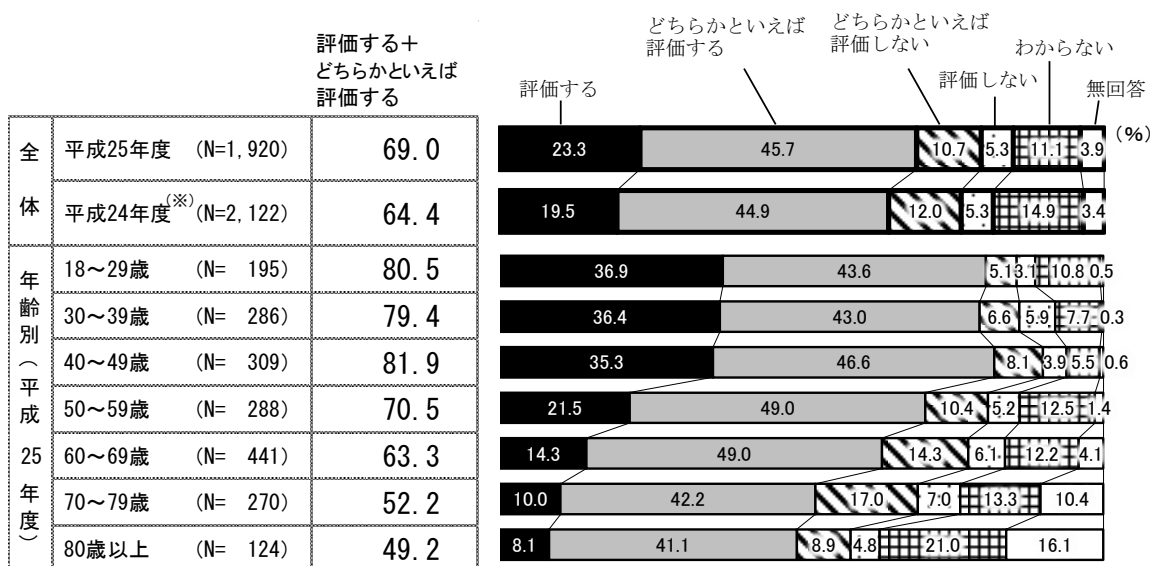


全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が50.9%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、50歳未満の年齢層で高くなる傾向が見られる。一方、“わからない+無回答”の割合が、概ね年齢層が上がるほど高くなっている。

問5 5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなど観ることができる環境づくり

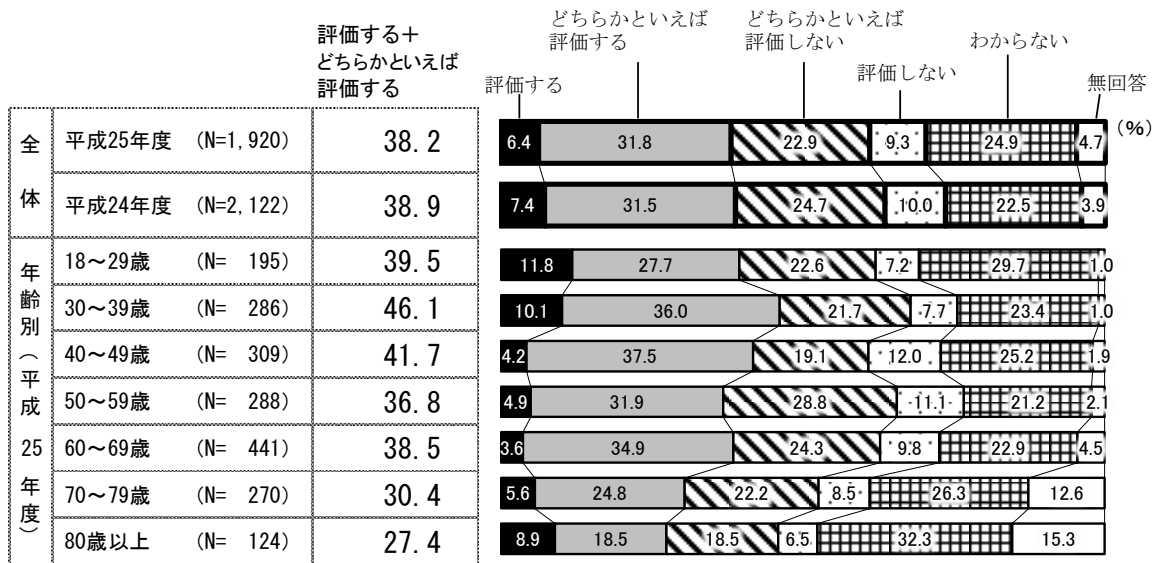
(※平成24年度項目：プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを通じた、スポーツに親しめる環境づくり)



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が69.0%と非常に高くなっている。

年齢層別では、50歳未満は“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、80%前後と極めて高いのに対し、50歳以上においては徐々に低くなるとともに、“わからない+無回答”が高くなる傾向が見られる。

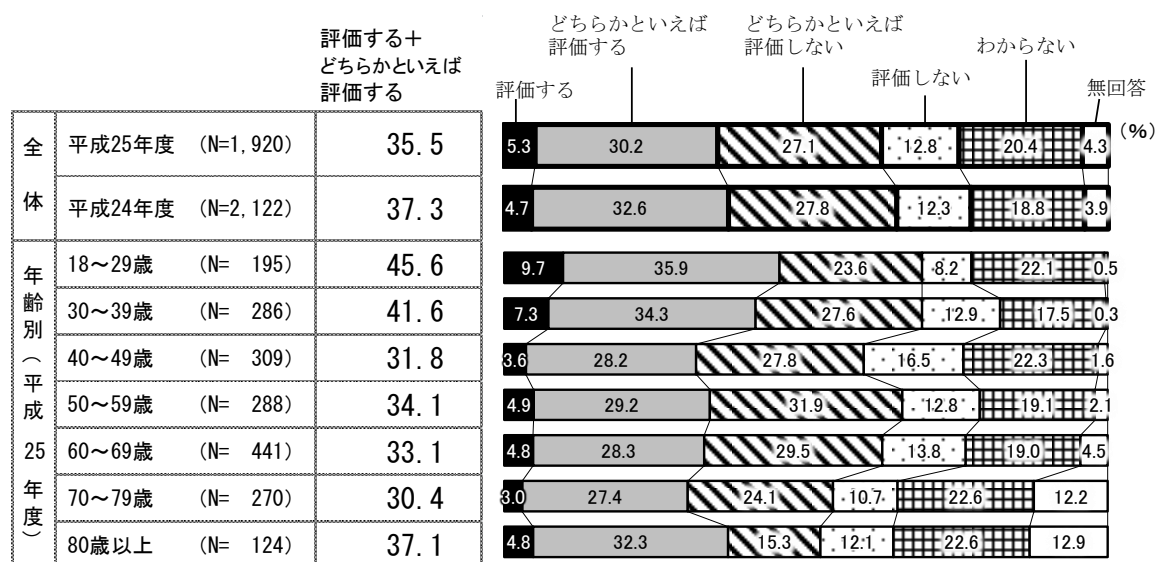
問6 1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が38.2%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.2%)を上回っている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、30~40歳代で4割を超えており、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、若年層及び高齢層で高くなっている。

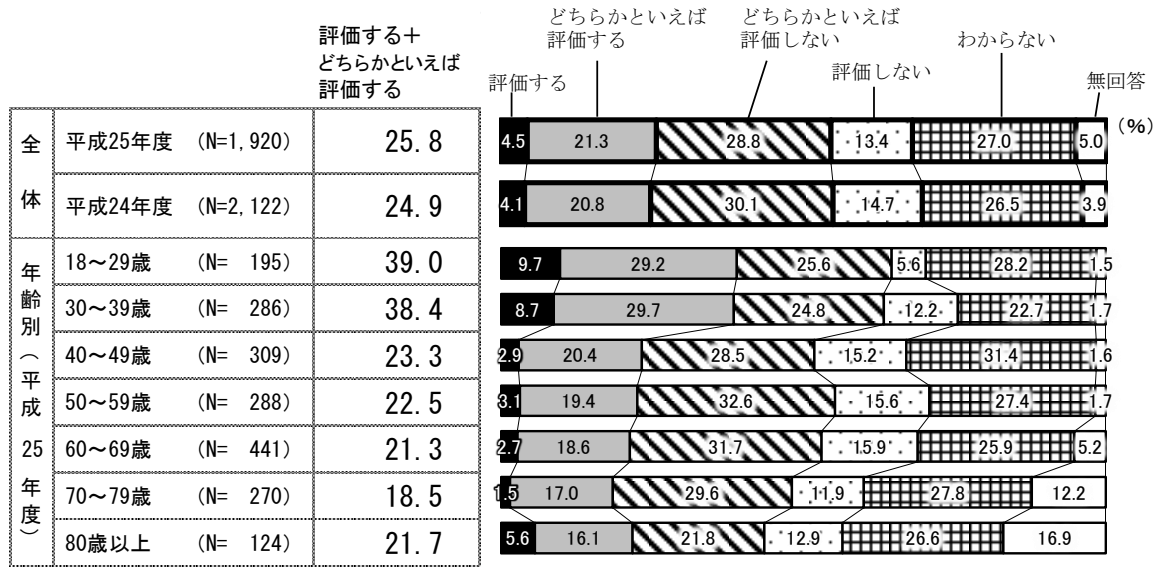
問6 2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活力づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が35.5%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(39.9%)を若干下回っている。

年齢層別では、40歳未満で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が4割を超えており、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、高齢層で高くなっている。

問6 3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化

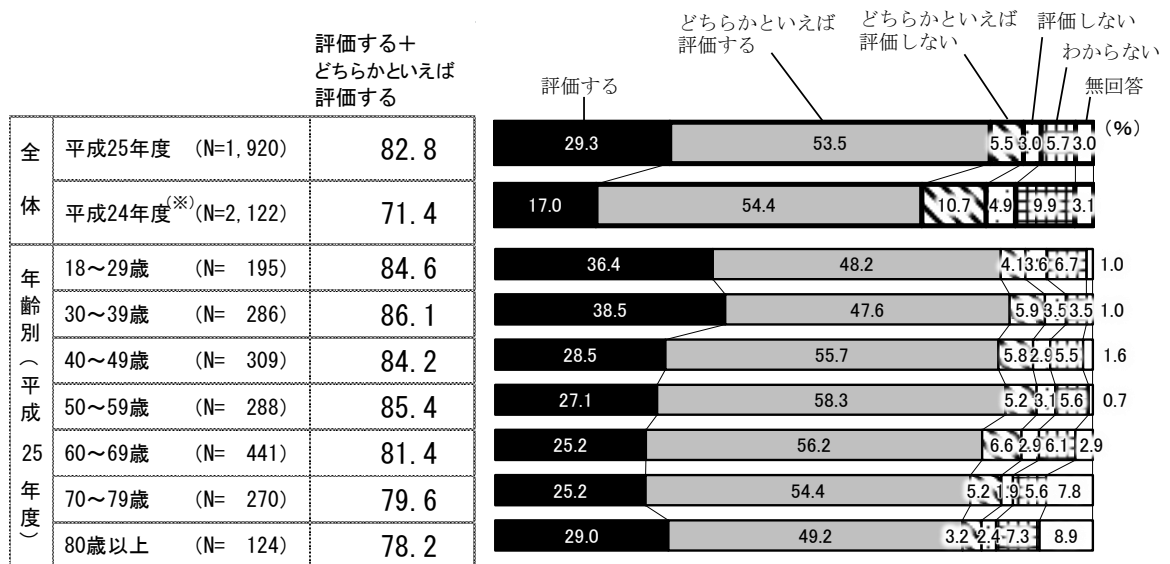


全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が25.8%にとどまっておらず、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(42.2%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が32.0%と高くなっている。

年齢層別では、若年層で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、高齢層で高くなっている。

問6 4. 仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり

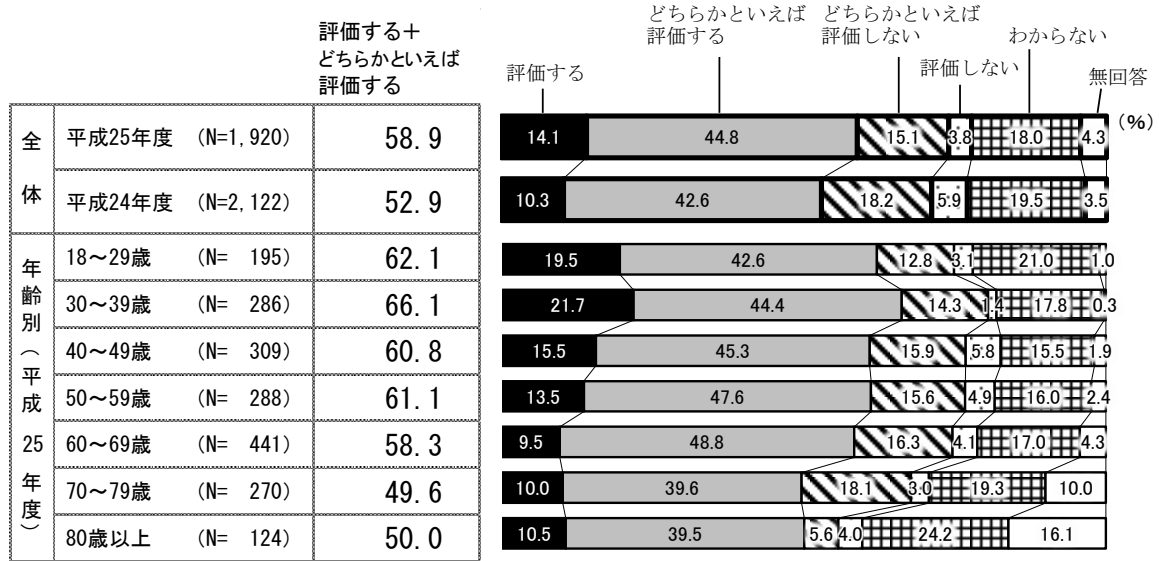
(※平成24年度項目：まつりやスポーツ大会などさまざまなイベントを活用した仙台の魅力づくり)



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が82.8%と極めて高く、平成24年度からも10%以上高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が8.7%と低くなっている。

年齢層別では、全年齢層において評価が高く、大きな差異は見られない。

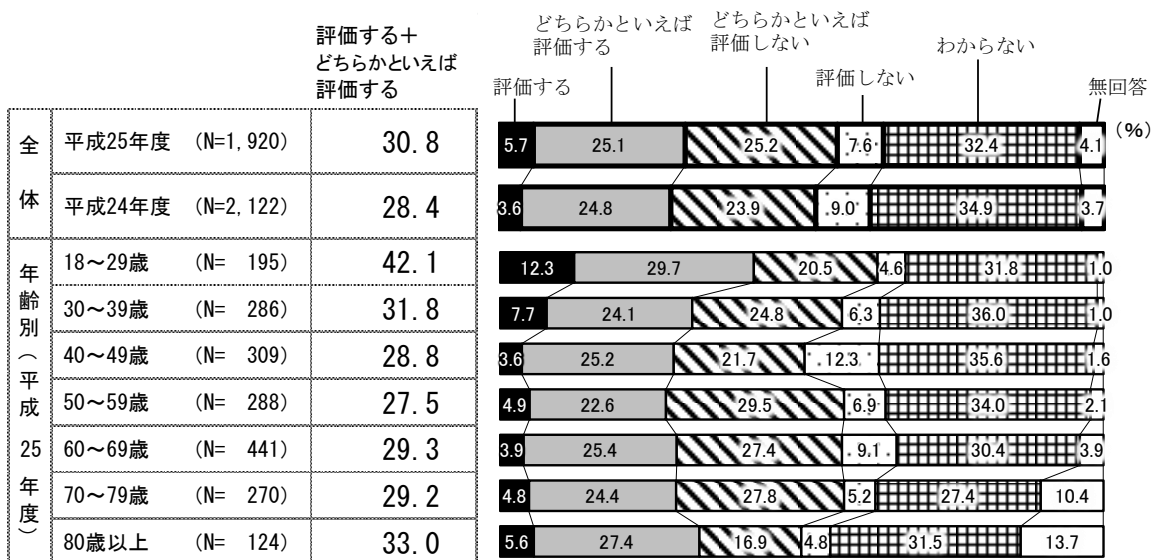
問6 5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が58.9%と高くなっている。

年齢層別では、70歳未満で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に30歳代で高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合は、年齢層が上がるほど高くなる傾向にあり、特に80歳以上で4割に達している。

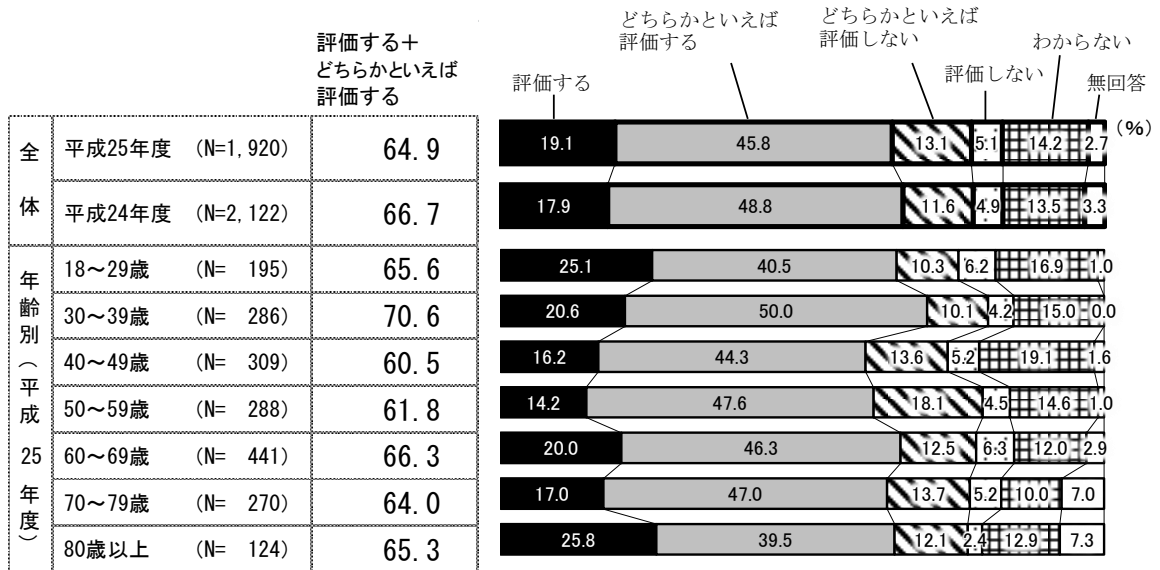
問6 6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30.8%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(32.8%)と拮抗している。一方、“わからない+無回答”の割合が36.5%となっている。

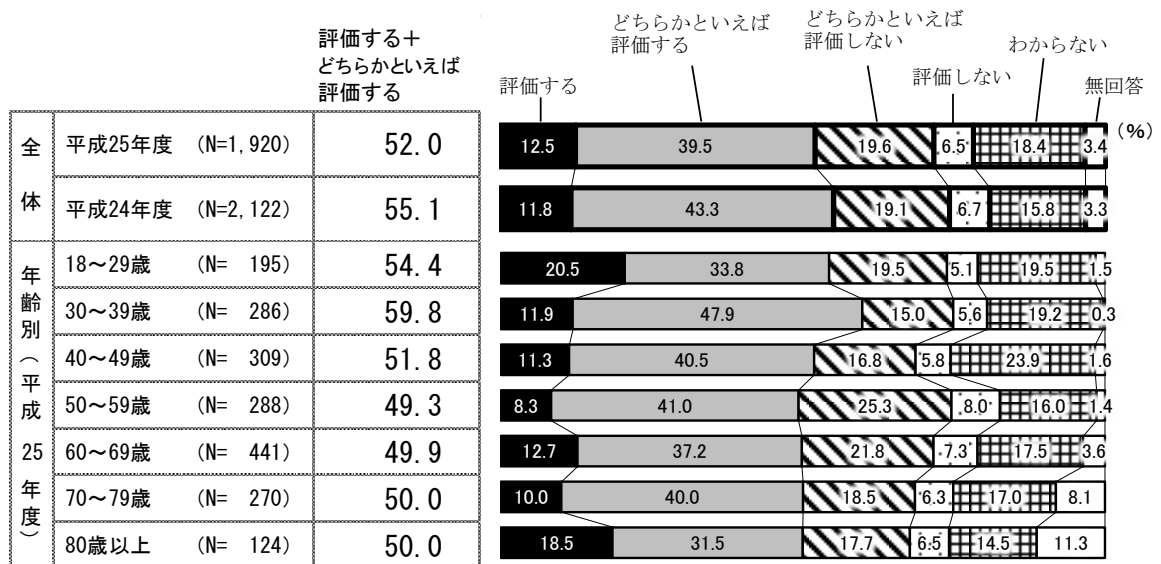
年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が4割を超えており、他の年齢層より高くなっている。

問7 1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進



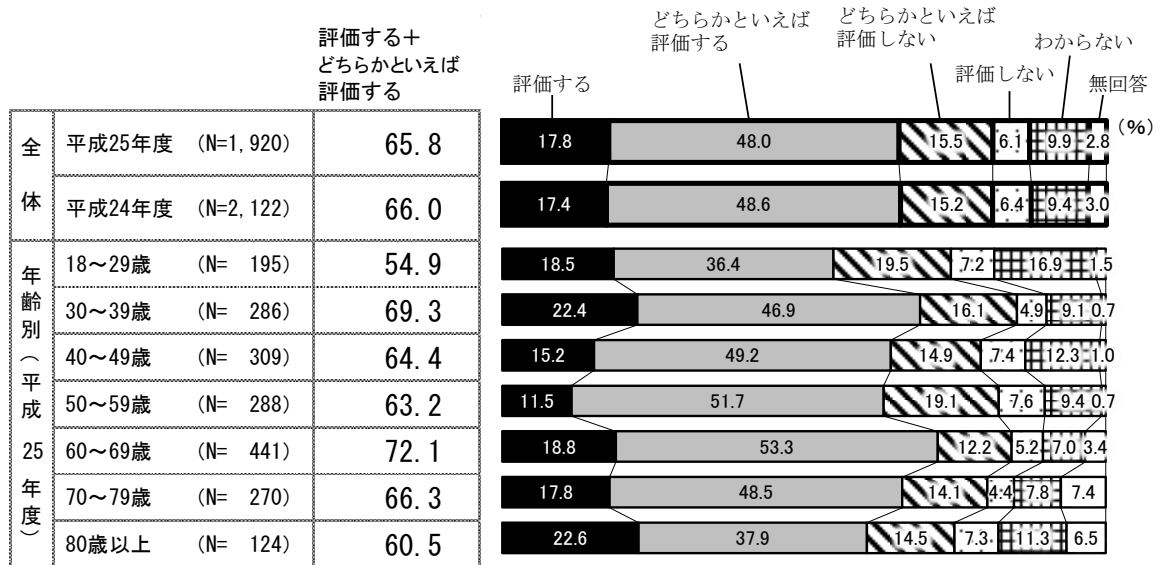
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が64.9%と非常に高くなっている。
 年齢層別では、30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が7割を超えており、他の年齢層より高くなっている。

問7 2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全



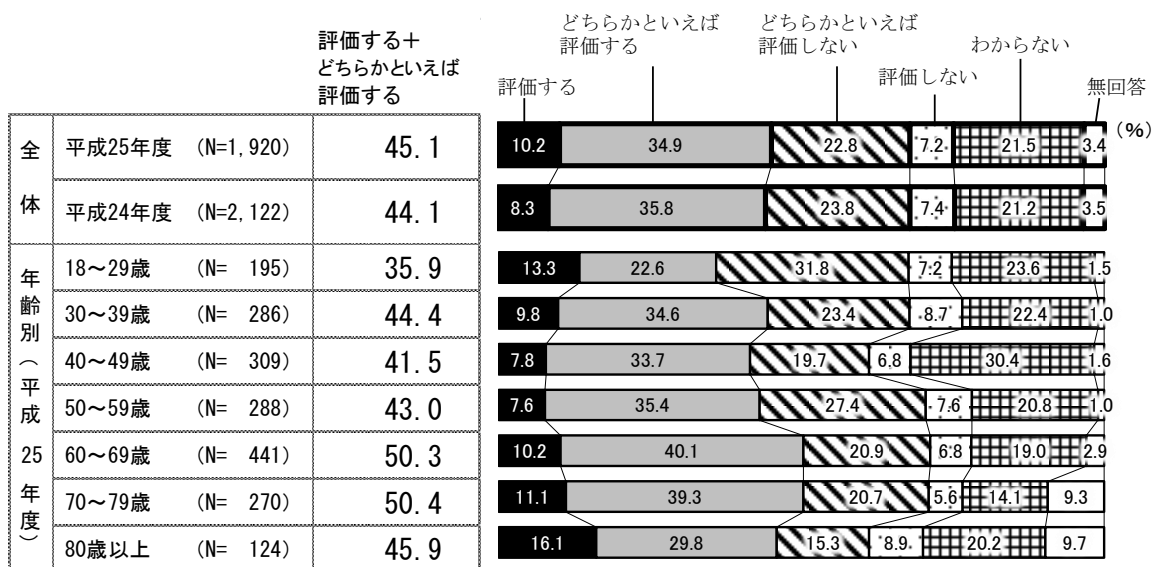
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が52.0%と高くなっている。
 年齢層別では、30歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が6割近くに達しており、他の年齢層より高くなっている。

問7 3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり



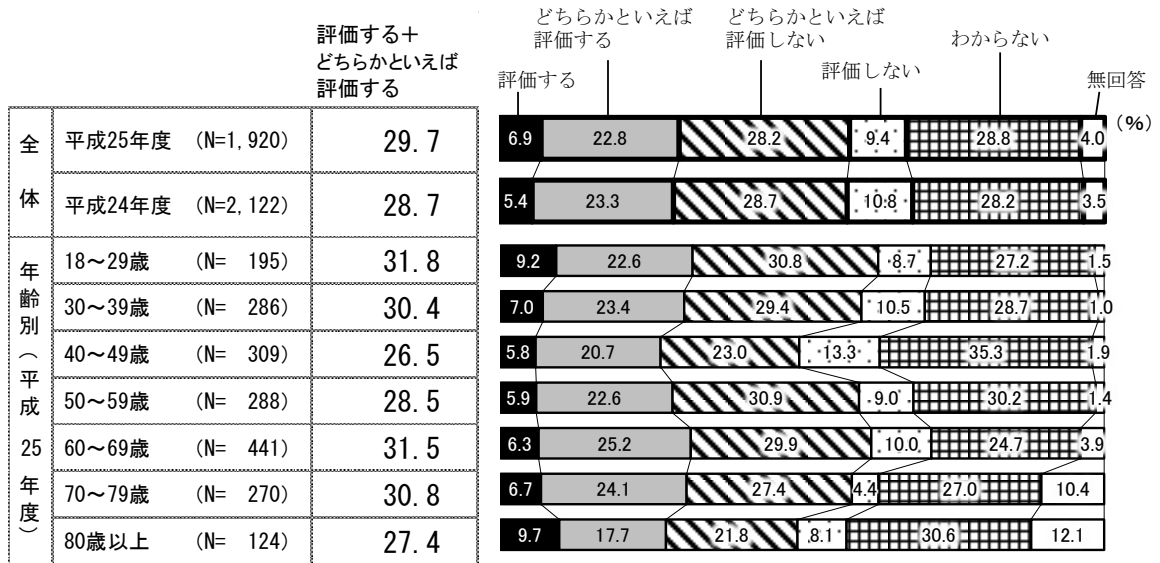
全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が65.8%と非常に高くなっている。
 年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が50%台となっており、他の年齢層より評価は低くなっている。一方、60歳代では70%を超えており、高くなっている。

問7 4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が45.1%と高めになっている。
 年齢層別では、18~29歳でのみ“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が30%台となっており、他の年齢層より評価は低くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、40歳代と80歳以上で高くなっている。

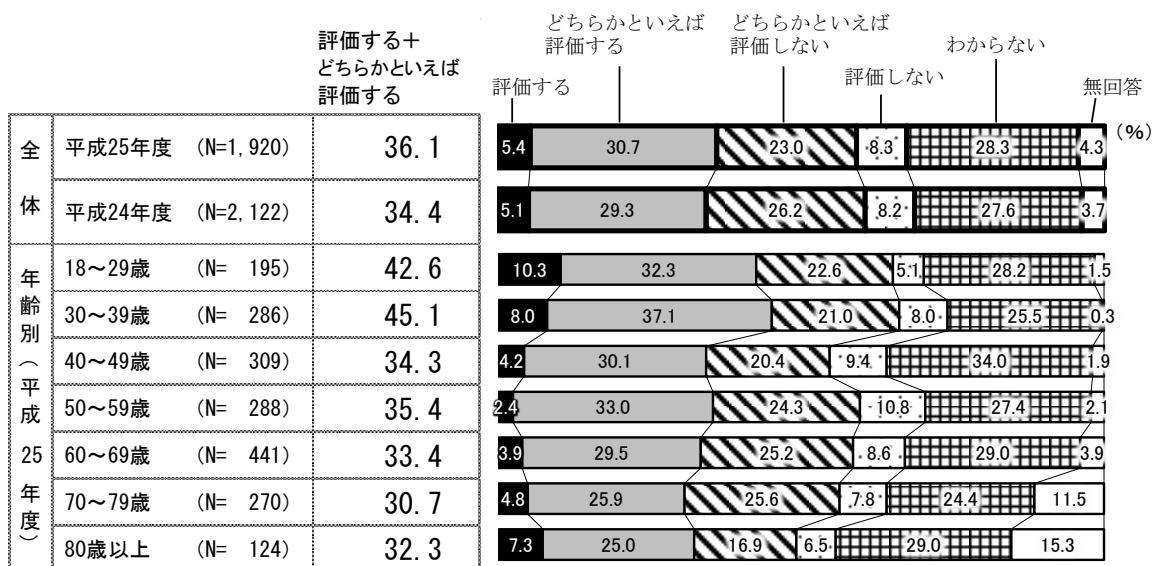
問7 5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が29.7%にとどまっておき、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(37.6%)を下回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が32.8%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合には大きな差異は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合が、80歳以上では4割を超えており、他の年齢層より高くなっている。

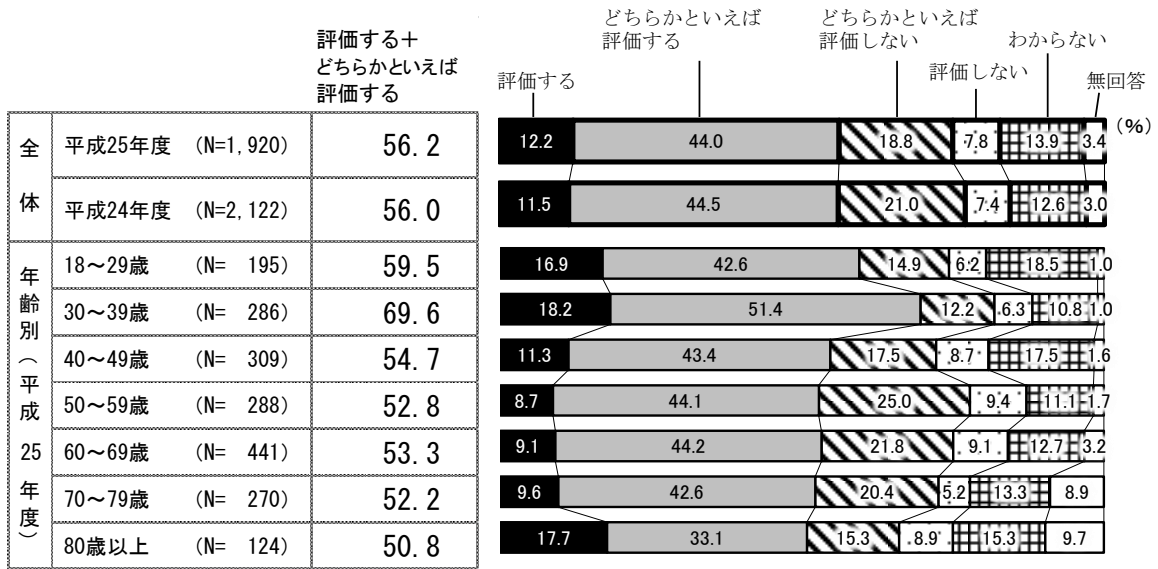
問8 1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が36.1%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(31.3%)を若干上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が32.6%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が40歳未満で4割を超えており、高くなっている。一方“わからない+無回答”の割合が、概ね年齢層が上がるほど高くなる傾向が見られる。

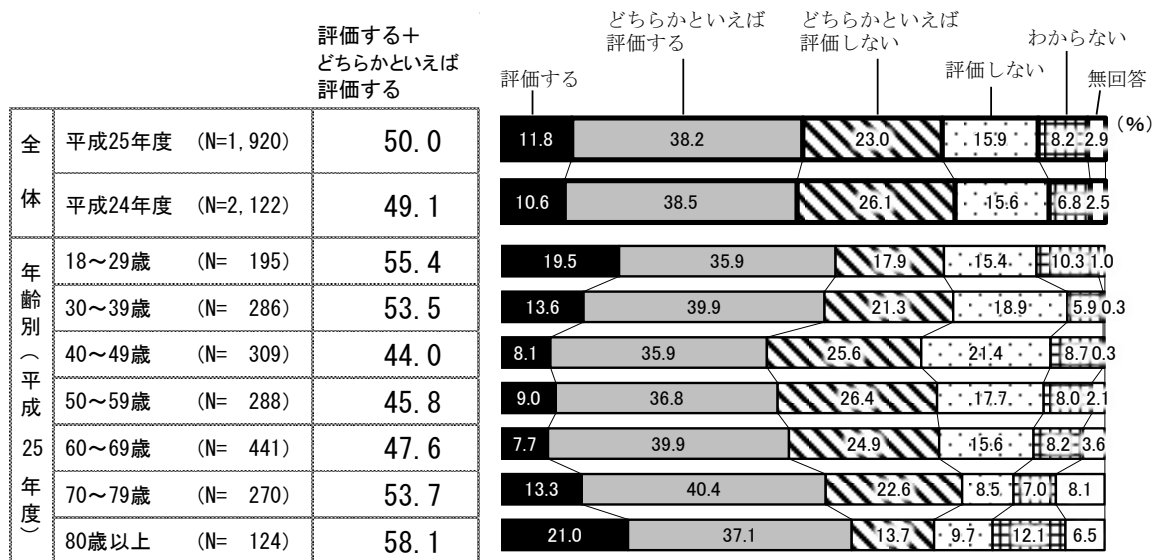
問8 2. 社の都にふさわしい風格ある景観づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が56.2%と高くなっている。

年齢層別では、若年層では“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が高く、特に30歳代では7割近くに達し、他の年齢層より高くなっている。

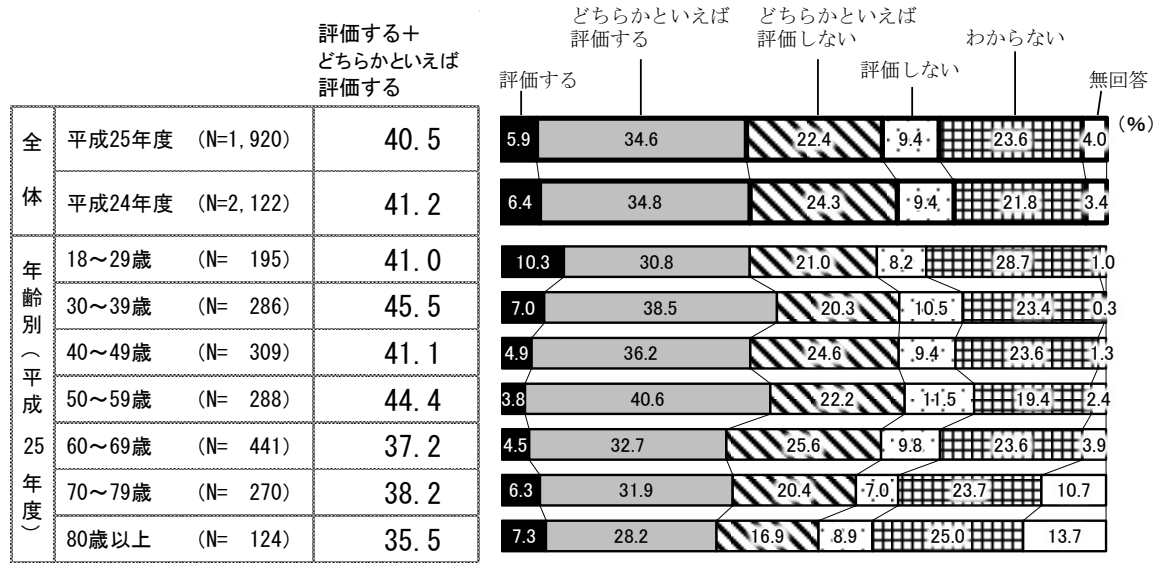
問8 3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が50.0%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、若年層及び高齢層で高くなっており、80歳以上では他の年齢層よりも高くなっている。

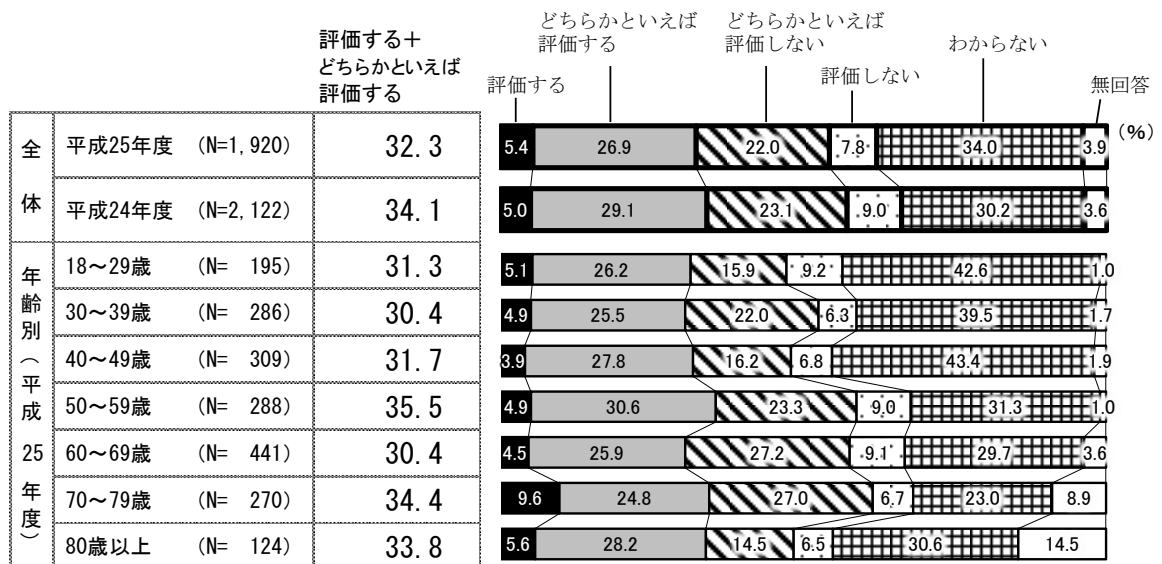
問8 4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が40.5%と高めとなっている。一方、“わからない+無回答”の割合についても、27.6%と高めとなっている。

年齢層別では、60歳未満で“評価する+どちらかといえば評価する”が4割を超えており、60歳以上より高くなっている。

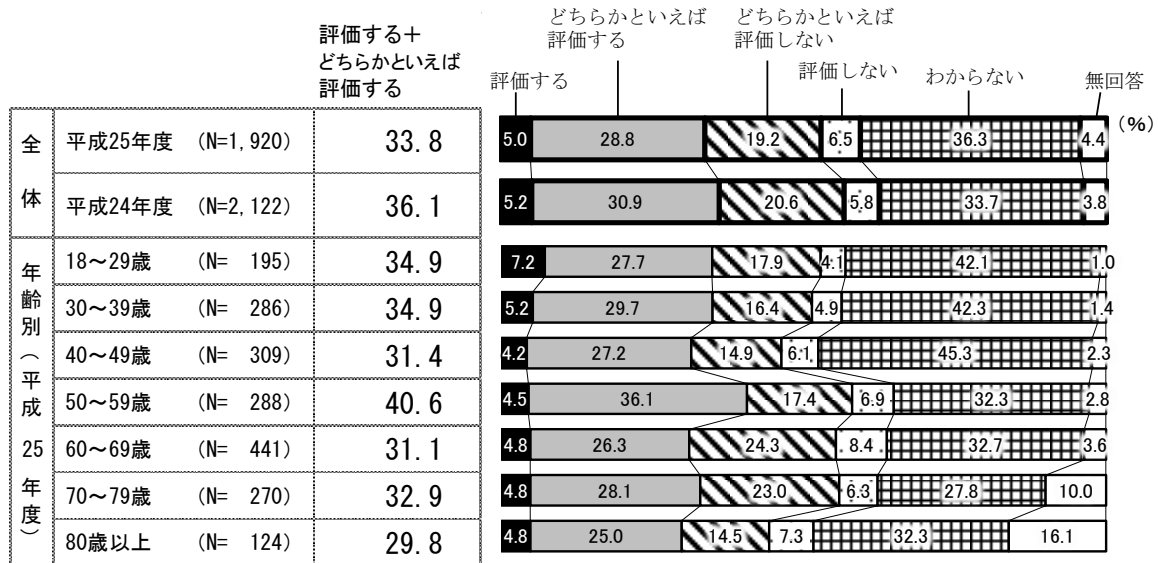
問9 1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が32.3%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(29.8%)を若干上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が37.9%と高くなっている。

年齢層別では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合は、大きな差異は見られない。一方、“わからない+無回答”の割合が、50歳未満及び80歳以上で高くなっている。

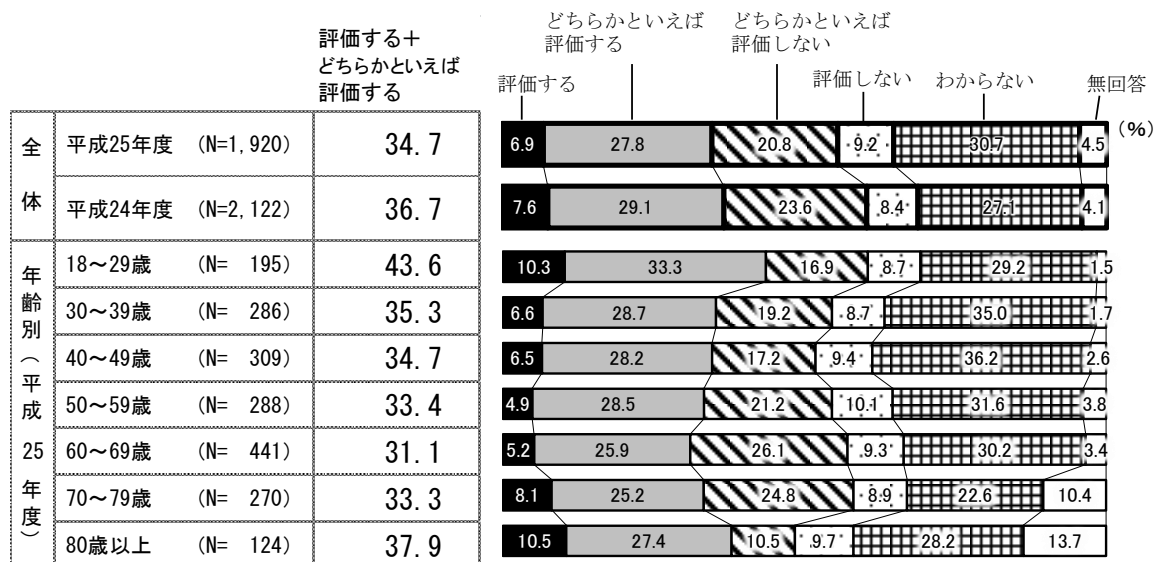
問9 2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が33.8%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(25.7%)を上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が40.7%と非常に高くなっている。

年齢層別では、50歳代で“評価する+どちらかといえば評価する”が4割台と、他の年齢層より高くなっている。一方、“わからない+無回答”の割合が、50歳未満及び80歳以上で高くなっている。

問9 3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり



全体では、“評価する+どちらかといえば評価する”割合が34.7%となっており、“評価しない+どちらかといえば評価しない”(30.0%)を若干上回っている。一方、“わからない+無回答”の割合が35.2%と高くなっている。

年齢層別では、18~29歳で“評価する+どちらかといえば評価する”の割合が、他の年齢層より高くなっている。

分野別比較一覧 問1 “進んでいる+どちらかといえば進んでいる”
問2~9 “評価できる+どちらかといえば評価できる”

(%)

項目		H25	H24
問1 仙台区の復興施策	1. 震災がれきの処理	66.7	31.9
	2. 道路のかさ上げなどによる多重な津波防災対策	17.3	8.4
	3. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保	19.2	17.8
	4. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	14.1	9.6
	5. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援	26.1	22.4
	6. 東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援	19.7	10.4
	7. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生	9.6	5.4
	8. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	39.8	28.6
	9. 「エコモデルタウン」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進	15.1	—
	10. 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	16.1	13.8
問2 暮らしで安全に安心	1. 医療サービスや救急医療体制の充実	55.0	62.7
	2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進	57.5	64.6
	3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保	38.1	43.1
	4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全、対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実	34.4	31.9
	5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全	35.5	35.4
	6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化	32.7	28.5
	7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上	48.5	43.9
問3 子育て支援や教育環境づくり	1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり	30.6	30.4
	2. 児童館の整備やさまざまな体験活動など、子どもたちが明るく元気に育つための環境づくり	44.4	45.7
	3. 「のびすく」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり	36.0	38.1
	4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実	27.7	32.1
	5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり	33.4	34.3
	6. 大学などの人材や知的資源の集積による「学都」を生かしたまちづくり	29.3	31.8
問4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり	1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり	37.0	38.3
	2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり	36.1	38.8
	3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり	28.9	28.6
	4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり	27.4	27.9
	5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり	29.4	28.1
	6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり	26.2	25.7
	7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進	23.7	25.1
	8. 外国人が暮らしやすい環境づくり	21.1	22.0
問5 スポーツに親しめる環境づくり	1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、市民が音楽・アート等に取り組める環境づくり	67.7	68.0
	2. 「せんくら」や中心市街地でのアートイベントの開催など、身近に文化芸術に触れられる環境づくり	67.9	68.2
	3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり	52.6	52.6
	4. スポーツに市民が取り組める環境づくり	50.9	47.9
	5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり	69.0	64.4
問6 産業振興と観光交流促進	1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出	38.2	38.9
	2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活力づくり	35.5	37.3
	3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化	25.8	24.9
	4. まつりやスポーツ大会などさまざまなイベントを活用した仙台の魅力づくり	82.8	71.4
	5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大	58.9	52.9
	6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進	30.8	28.4
問7 自然と調和しながらまちづくり	1. 市街地の緑化や公園整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進	64.9	66.7
	2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全	52.0	55.1
	3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり	65.8	66.0
	4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり	45.1	44.1
	5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり	29.7	28.7
問8 交通系中心の交通	1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進	36.1	34.4
	2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり	56.2	56.0
	3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通系づくり	50.0	49.1
	4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備	40.5	41.2
問9 市民生活への促進	1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進	32.3	34.1
	2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり	33.8	36.1
	3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり	34.7	36.7

3. 自由意見

復興に向けた取り組みなどを含め、市政全般に関する自由意見を取りまとめたところ、以下のようになった。

意見の件数は複数回答の取り扱いとしている。

◆大分類

分類項目	件数
1 市政に対する意見	708 件
2 アンケートに対する意見	46 件
3 その他	8 件
総意見数（回答者数 554 名）	762 件

◆中分類（※大分類 1 「市政に対する意見」を細分化）

分類項目	件数
1 東日本大震災からの復旧・復興	164 件
2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり	46 件
3 子育て支援や教育環境づくり	69 件
4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり	59 件
5 文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり	19 件
6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進	46 件
7 自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり	22 件
8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり	129 件
9 市政や公益活動への市民参加の促進	42 件
10 その他（市政関連）	112 件
総意見数	708 件

◆小分類（※中分類をさらに細分化）

分類項目	件数	
1 東日本大震災からの復旧・復興	1 被災された方々への生活再建支援	27 件
	2 集団移転や復興公営住宅の建設など住まいの確保	15 件
	3 防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	13 件
	4 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	6 件
	5 公園の再整備や自然環境再生などによる海辺の再生	6 件
	6 原発・放射能対策	6 件
	7 農地の復旧や、大規模化などによる農業再生	5 件
	8 津波防災対策	4 件
	9 太陽光発電など次世代エネルギーの推進	4 件
	10 ライフラインや公共施設の復旧	3 件
	11 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	3 件
	12 震災がれきの処理	1 件
	13 その他（震災関連）	71 件
2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり	1 医療サービス・救急医療体制	22 件
	2 交通マナー	14 件
	3 健康づくり	5 件
	4 地震・集中豪雨など災害対策	3 件
	5 防犯対策	2 件

分類項目		件数
づ教て3 く育支 り環援子 境や育	1 保育所の整備や相談事業等	30件
	2 学校教育・教育環境	23件
	3 子育て環境	16件
りしき4 や、自誰 す立も い立も 環し 境が つ共 く暮 ら生	1 高齢者福祉	31件
	2 障害者福祉	13件
	3 生活保護	7件
	4 バリアフリーのまちづくり	6件
	5 国際化関連	2件
りるツ5 環や 境親ス づくしポ くめー芸	1 スポーツのための施設・サービス	8件
	2 芸術や文化の振興	7件
	3 その他（文化スポーツ関連）	4件
光る6 交産 流業東 促の北 進振を 興牽 と引 観す	1 雇用対策	17件
	2 観光資源やイベントを生かしたまちづくり	10件
	3 商店街の活性化や地域産業の振興	8件
	4 地産地消の推進など農業政策	5件
	5 その他（産業観光関連）	6件
ちの和7 づく都し くりをな り育が然 むらと ま杜調	1 ごみ減量・リサイクル	10件
	2 緑の保全・創出	9件
	3 公害防止や温暖化防止など環境保全	1件
	4 その他（環境関連）	2件
8 公コ 共ン 交パ 通ク 中ト 心な のま 交ち 通づ 体り 系と つくり	1 公共交通	30件
	2 道路の管理	16件
	3 良好な住環境の整備	15件
	4 渋滞緩和	14件
	5 地下鉄東西線	12件
	6 自転車対策	11件
	7 街並みや景観	9件
	8 基幹となる道路ネットワークの整備	8件
	9 都市再開発や市街地の活性化	6件
	10 その他（まちづくり・交通関連）	8件
促民動や9 進参へ公 加の益市 の市活政	1 広報政策	30件
	2 市民参加によるまちづくり	9件
	3 その他（市民参画関連）	3件
10 そ の 他 （ 市 政 関 連 ）	1 行政運営全般	40件
	2 窓口サービスや職員	19件
	3 市長	10件
	4 パンダ誘致関連	9件
	5 税関連	8件
	6 市民生活全般	5件
	7 その他（公共施設について等）	21件
総意見数		708件

市政に対する意見について、＜中分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、『1 東日本大震災からの復旧・復興（146 件）』が最も多く、次に『8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり（126 件）』、『3 子育て支援や教育環境づくり（71 件）』、『6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進（55 件）』、『4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり（49 件）』、『2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり（42 件）』が続いている。

『1 東日本大震災からの復旧・復興』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、「1 被災された方々への生活再建支援（27 件）」では、仮設住宅に住んでいる方への心身の健康面などにおける支援や医療費減免制度の減免の継続を望む意見が寄せられている。また、「集団移転や復興公営住宅の建設など住まいの確保（15 件）」では、仮設住宅から復興住宅等へ早期に入居できるよう望む意見が寄せられている。

『8 コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 公共交通（29 件）」では、バスのダイヤや路線の充実、運賃の見直し、その他利便性の向上を望む意見が寄せられている。

『3 子育て支援や教育環境づくり』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順で見ると、「1 保育所の整備や相談事業等（24 件）」では、保育所の整備による待機児童解消を望む意見が多数を占めており、安心して子供を産み、育てることができる環境づくりを求める意見が寄せられている。

『6 東北を牽引する産業の振興と観光交流促進』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 雇用対策（17 件）」では、若者の雇用対策強化、長期雇用に繋がるような雇用環境の改善、職業訓練をはじめとする就労支援の強化等を望む意見が寄せられている。

『4 誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 高齢者福祉（25 件）」では、高齢化の進行に伴う諸問題に対応するため、特別養護老人ホームなどの施設整備や介護サービスの質の向上のほか、健康でいきがいを持って暮らすことができる環境づくり等を望む意見が寄せられている。

『2 健康で安全に安心して暮らせるまちづくり』について、＜小分類＞の分類項目の中で件数が多かった「1 医療サービス・救急医療体制（17 件）」では、予防接種など感染症対策の充実、子供に対する医療助成の拡充や救急医療体制の整備を望む意見が寄せられている。

最後に、『10 その他（市政関連）』について、＜小分類＞の分類項目ごとに件数が多かった順に見ると、「1 行政運営全般（30 件）」では、仙台の個性を活かした将来のビジョンを求める意見や、世代や地域に偏りのない公平な行政運営を求める意見などが寄せられている。また、「3 窓口サービスや職員（18 件）」では、市職員の窓口業務をはじめとする公務に取り組む姿勢に対して、より市民に寄り添う対応を求める意見や震災対応等での労をねぎらう声が寄せられている。

Ⅲ. 資 料

平成 25 年度「施策目標に関する市民意識調査」へのご協力をお願い

市民の皆さまへ

平成 25 年 5 月
仙 台 市

市民の皆さまには、日頃より仙台市政の運営にご協力いただきますとともに、東日本大震災からの復旧・復興につきましても、皆さまのお力が大きな原動力となり仙台の再生に向けたさまざまな取り組みが進んでおりますことに、深く感謝申し上げます。

この調査は、震災からの復興や今後のまちづくりに向けた取り組みへの活用等を目的として、本市の主な施策に対する評価などを市民の皆さまにお聞きするものです。

調査にご協力いただく皆さまにつきましては、区ごとの人口などを考慮した上で、住民基本台帳から無作為に選ばせていただいております。

調査票へのご回答につきましては、無記名でお答えいただきますほか、その結果は、例えば「1 番の意見の方が計何人で、全体の何パーセント」などのように統計的に集計し公表いたしますので、皆さま個人にご迷惑のかかるようなことはございません。お手数とは存じますが、本調査にご協力いただきますよう、よろしくようお願い申し上げます。

なお、調査結果につきましては、本年 9 月に、本市のホームページなどによりお知らせする予定です。

お問い合わせ先

仙台市 総務企画局 企画部 企画調整課 電話 022-214-1110・0001

＊ ＊ ご記入にあたってのお願い ＊ ＊

1. ご回答は、必ず**ご本人が無記名**で行ってください。
2. ご回答にあたっては、設問の内容をよくお読みいただき、あてはまる番号や欄に○をつけてください。「その他」を選んだ場合は、（ ）内に具体的な内容をお書きください。
3. ご記入が終わりましたら、記入内容をお確かめの上、**専用の返信用封筒（切手不要）**に本調査票を封入し、**平成 25 年 6 月 3 日（月）**までにご投函ください。

※返信用封筒表面のバーコードは、料金受取人払いとするため郵便局からの指示で印刷したもので、ご回答された方を特定するものではありません。

4. ご回答の際、ご不明な点などございましたら、上記までお問い合わせください。

平成 25 年度「施策目標に関する市民意識調査」調査票

はじめに、あなたご自身や世帯の状況についておたずねします。

F1 あなたの性別をお答えください。あてはまる番号に○をつけてください。

1 男	2 女
-----	-----

F2 あなたの年齢をお答えください。あてはまる番号に○をつけてください。

1 18～19 歳	2 20～29 歳	3 30～39 歳	4 40～49 歳
5 50～59 歳	6 60～69 歳	7 70～79 歳	8 80 歳以上

F3 あなたの現在のお住まいは、次のどれですか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 持ち家（一戸建て）	2 持ち家（集合住宅）	3 賃貸住宅（一戸建て）
4 賃貸住宅（集合住宅）	5 社宅・官舎・寮	6 応急仮設住宅
7 その他（ ）		

F4 あなたご自身のお仕事は大きく分けて、次のどれにあたりますか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 経営者、役員	2 会社員、公務員など常勤の職員
3 臨時雇用、パート、アルバイト、内職	4 自営業者またはその家族従業者
5 専業主婦・主夫	6 学生
7 無職	8 その他（ ）

F5 現在同居されている世帯の構成はどのようになっていますか。

あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 一人暮らし	2 夫婦のみ
3 二世帯世帯（あなたの世代と親）	4 二世帯世帯（あなたの世代と子ども）
5 三世帯世帯（あなたを含めて三世代）	6 その他（ ）

F6 あなたのお住まいの場所（区）をお答えください。

あてはまる番号に○をつけてください。

1 青葉区	2 宮城野区	3 若林区	4 太白区	5 泉区
-------	--------	-------	-------	------

F7 あなたが仙台市（合併前の旧市町村を含む。）にお住まいになって何年になりますか。あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

※一度市外に転出して、また転入した方は、通算の年数をお答えください。

1 1 年未満	2 1～3 年未満	3 3～5 年未満	4 5～10 年未満
5 10～20 年未満	6 20～30 年未満	7 30 年以上	

F8 東日本大震災による被災の状況について、行政機関による「り災証明」の有無及びその内容等により、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

1 全壊	2 大規模半壊
3 半壊	4 一部損壊
5 り災証明を受けていない	

仙台市の東日本大震災からの復旧・復興施策についておたずねします。

問 1 あなたは、仙台市が進めている震災からの復旧・復興に向けた取り組みについて、どのくらい進んでいると思いますか。次の 1～10 の施策それぞれについて、あてはまるものを 1 つ選んで、番号に○をつけてください。

また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

今後、特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

東日本大震災からの復旧・復興施策	進んでいる	どちらかといえば進んでいる	どちらかといえば進んでいない	進んでいない	わからない	力をいれるべき施策
1. 震災がれきの処理	1	2	3	4	5	
2. 道路のかさ上げなどによる多重的な津波防災対策	1	2	3	4	5	
3. 集団移転や復興公営住宅の建設などによる安全な住まいの確保	1	2	3	4	5	
4. 丘陵地区等の宅地の復旧・再建	1	2	3	4	5	
5. 就労支援や心身の健康確保など、被災された方々への生活再建支援	1	2	3	4	5	
6. 東部エリアの農業再生に向けた農地の復旧や、農地の大規模化・法人化などの支援	1	2	3	4	5	
7. 海岸公園の再整備や自然環境の再生などによる美しい海辺の再生	1	2	3	4	5	
8. 震災の教訓を踏まえた防災対策の見直し、防災に関する教育や啓発	1	2	3	4	5	
9. 「エコモデルタウン（※）」の実現や、太陽光など次世代エネルギー関連施策の推進	1	2	3	4	5	
10. 復興特区制度の活用などによる企業誘致や新産業の創出・集積	1	2	3	4	5	

※「エコモデルタウン」：田子西や荒井東土地区画整理事業で進められている取り組みで、再生可能エネルギーを積極的に導入しながら非常時のエネルギーを確保し、通常時においても高いエネルギー効率と経済性の両立を図るまちづくり。

震災復興関連以外の仙台市の施策に関しておたずねします。

健康で安全に安心して暮らせるまちづくり

問2 仙台市の「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 医療サービスや救急医療体制の充実	1	2	3	4	5	
2. 生活習慣病予防対策や健診体制の充実など、健康づくりの推進	1	2	3	4	5	
3. 感染症対策や消費者被害の防止など、暮らしの安全の確保	1	2	3	4	5	
4. 歩道整備や自転車の安全利用等の交通安全対策や防犯対策など、地域の安全対策の充実	1	2	3	4	5	
5. 道路や公園、市民利用施設などの公共施設の耐震化や、計画的な維持・保全	1	2	3	4	5	
6. 地震や集中豪雨などの災害への対応力の強化	1	2	3	4	5	
7. 防災訓練の実施など、地域団体や学校等の連携による地域の防災力向上	1	2	3	4	5	

子育て支援や教育環境づくり

問3 仙台市の「子育て支援や教育環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 保育所の整備や延長保育・一時預かりの充実など、安心して子育てができる社会づくり	1	2	3	4	5	
2. 児童館の整備やさまざまな体験活動の機会の確保など、子どもたちが明るく元気に育つ環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 「のびすく（※）」を中心とした子育て支援ネットワークの構築・活性化など、子どもと子育て家庭を応援する地域づくり	1	2	3	4	5	

4. 子どもたちが健やかに成長し、社会でたくましく「生きる力」を育むための学校教育の充実	1	2	3	4	5	
5. 家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの成長を応援する環境づくり	1	2	3	4	5	
6. 大学などの人材や知的資源が集積した「学都」を生かしたまちづくり	1	2	3	4	5	

※「のびすく」：乳幼児の親子が自由に交流できるスペースの提供や、理由を問わない託児などを行っている子育て支援施設。

誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり

問 4 仙台市の「誰もが共に生き、自立して暮らしやすい環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 高齢者が生きがいを持ち、社会参加することができる社会づくり	1	2	3	4	5	
2. 介護予防や健康づくりなど、高齢者が健康で活力ある生活をおくることができるまちづくり	1	2	3	4	5	
3. 特別養護老人ホームなどの介護サービス基盤の整備や、地域が高齢者を支える環境づくり	1	2	3	4	5	
4. 就労支援や社会参加の促進など、障害者が生きがいや働きがいを持てる環境づくり	1	2	3	4	5	
5. ホームヘルプサービスの充実など、障害者の自立した生活を支える環境づくり	1	2	3	4	5	
6. 発達相談支援センターにおける相談支援など、障害者が安心して暮らすための体制づくり	1	2	3	4	5	
7. 男女平等意識の醸成や育児・介護と仕事の両立など、男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	
8. 外国人が暮らしやすい環境づくり	1	2	3	4	5	

文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり

問5 仙台市の「文化芸術やスポーツに親しめる環境づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 文化センターの整備や各種イベントの開催など、音楽・アート等に市民が取り組める環境づくり	1	2	3	4	5	
2. 「せんくら（※）」や中心市街地でのアートイベントの開催など、文化芸術に触れられる環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 地域の歴史や文化などについて学び、楽しむことができる環境づくり	1	2	3	4	5	
4. スポーツに市民が取り組める環境づくり	1	2	3	4	5	
5. プロスポーツやさまざまなスポーツイベントなどを観ることができる環境づくり	1	2	3	4	5	

※「せんくら」：仙台クラシックフェスティバルの愛称。毎年秋の3日間にわたり、誰もが楽しめる低料金・短時間のコンサートを多数開催する、クラシック音楽の祭典。

東北を牽引する産業の振興と観光交流促進

問6 仙台市の「東北を牽引する産業の振興と観光交流促進」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 地域産業の振興や企業誘致による雇用機会の創出	1	2	3	4	5	
2. 広域的な集客力の向上に向けた中心部商店街の活力づくり	1	2	3	4	5	
3. 地産地消や担い手の確保などによる農林業の活性化	1	2	3	4	5	
4. 仙台七夕まつりや仙台国際ハーフマラソンなどさまざまなイベントを生かした仙台ブランドづくり	1	2	3	4	5	
5. 観光キャンペーンやコンベンションの誘致などによる交流人口の拡大	1	2	3	4	5	
6. 外国人観光客の誘致や海外との経済活動の促進	1	2	3	4	5	

自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり

- 問7** 仙台市の「自然と調和しながら杜の都を育むまちづくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 市街地の緑化や公園の整備など、杜の都の緑を守り育む「百年の杜づくり」の推進	1	2	3	4	5	
2. 森林や里山、河川など豊かな自然環境の保全	1	2	3	4	5	
3. ごみ減量・リサイクルの推進など、資源を有効に循環させる都市づくり	1	2	3	4	5	
4. 大気汚染・騒音の低減や水質の保全など、良好で快適な環境を守る都市づくり	1	2	3	4	5	
5. 二酸化炭素の排出抑制や太陽光エネルギーの普及拡大など、環境負荷の小さな都市づくり	1	2	3	4	5	

コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり

- 問8** 仙台市の「コンパクトなまちづくりと公共交通中心の交通体系づくり」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	わからない	力をいれるべき施策
1. 都心部への機能集約や郊外における地域活性化など、地域の特性に応じた土地利用の推進	1	2	3	4	5	
2. 杜の都にふさわしい風格ある景観づくり	1	2	3	4	5	
3. 鉄道やバスなどの公共交通を中心とする利便性の高い交通体系づくり	1	2	3	4	5	
4. 産業活動など都市の活力を支える道路ネットワークの計画的な整備	1	2	3	4	5	

市政や公益活動への市民参加の促進

問 9 仙台市の「市政や公益活動への市民参加の促進」に向けた以下の取り組みに対するあなたの評価について、あてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。
 また、このうち、今後特に力をいれていくべきと思う施策に○（複数可）をつけてください。

	評価 する	どちらか といえば 評価 する	どちらか といえば 評価 しない	評価 しない	わから ない	力をい れるべ き施策
1. 市民意見の募集や市民協働事業の拡充など、市政への市民参画の推進	1	2	3	4	5	
2. 地域団体やNPO・企業などが社会貢献活動に取り組みやすい環境づくり	1	2	3	4	5	
3. 若者の地域活動やボランティア活動への参加など、若者の力を生かしたまちづくり	1	2	3	4	5	

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。
 なお、復興に向けた取り組みなども含め、市政各般に関するご意見などがございましたら、下欄にご記入ください（紙幅が不足する場合、お手持ちの用紙などにご記入願います。）。

[ご意見など]

施策目標に関する市民意識調査
(平成25年度市民アンケート取りまとめ)
報告書

平成25年8月発行

仙台市 総務企画局 企画部 企画調整課
〒980-8671 仙台市青葉区国分町3丁目7番1号
TEL 022-214-1110・0001
調査受託：株式会社東日本リサーチセンター

※再生紙を使用しています。